

- (ホ) 測度ヲ終リタル船室等ハ順次手帳ノ略圖又ハ船圖ニ印ヲ附シ又ハ抹消スルヲ便トス
- 十七 荷足水艙ノ測リ方
- (イ) 碇泊中ノ船舶ニ在リテハ隨意ニ水艙ヲ空虚トシ又ハ同時ニ二箇以上ノモノヲ空虚トスルコト困難ナル場合アリ測度ノ日程ニ依リ適當ノ時期ニ行ヒ得ル様豫メ船員ト打合セ置クコト
- (ロ) 船首尾水艙ノ深ヲ測ルニハ首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ肋板頂面ノ延長面ヲ求ムルコト困難ナル場合多シ第一艙又ハ車軸隧道端室内ニ入りタルトキハ相當標準トナルヘキ鉸釘ノ位置又ハ頂板ヨリノ距離等ニ注意スルコト
- 十八 艙口ノ積量ノ測リ方
- 艙口ノ高ハ甲板下面ヨリ蓋板下面迄ヲ測リ尙兩端緣板ハ山形ヲナスヲ以テ其ノ平均ノ高ヲ採ルコト
- 十九 一般注意事項
- (イ) 測度主任ハ如何ナル場合ニ於テモ自ラ測度ノ現場ニ臨ムヲ要シ一部ノ測度ト雖手傳人ノミニ委任スヘカラサルコト
- (ロ) 如何ナル場合ニ於テモ相似形ト推定シ測度ヲ省略スヘカラサルコト
- 右舷室ト左舷室ト同様ト推定スルカ如キハ不可ナリ假令全然同様ト推定シ得ヘキ理由アルモ一應現場ニ臨ミタル上手帳ニ寸法ヲ記入スルコト
- (ハ) 測度終了ノ部分ニ付テハ即日整理ノ上之ヲ測度表ニ記入スルコト

○簡易船舶積量測度規程

昭和七年四月十一日
逕信省令第十二號

- 第一條 長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 船ノ長トハ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル水平距離ヲ謂フ
船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル水平距離ヲ謂フ
船ノ深トハ船ノ長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ舷側ニ於ケル上面ニ至ル垂直距離ヲ謂フ
- 第三條 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヲ上甲板梁ノ上面ト看做スヘシ
低船首樓甲板、低船尾樓甲板又ハ之ニ準スヘキ甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ
一部分ノミニ上甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ甲板ナキ部分ニ於テ舷端ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ上甲板ト看做スヘシ
前各項ノ外特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長、幅及深ハ其ノ構造ニ應シ前條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムヘシ
- 第四條 長、幅、深及高ヲ測度スルニハメートルヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ
- 容積及積量ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ第四位ハ四捨五入スヘシ但シ總噸數及純噸數ヲ

算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入スヘシ
第五條 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニ上甲板上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ積量ハ之ヲ總積量ニ算入セズ

- 一、機關室、操舵室、賄室及出入口室
- 二、採光通風ニ要スル場所及便所
- 三、長又ハ幅カ一メートル未滿ナル暴露シタル艙口
- 四、遞信大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所

甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ積量ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ加ヘタルモノヲ總積量トス

第六條 船樓、甲板室、其ノ他上甲板上ノ場所ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅九十一センチメートル以上高百二十二センチメートル以上ノ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル開口ヲ有スルモノハ前條ノ蔽圍シタル場所ト看做サス但シ旅客ニ供用セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第七條 上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長、幅及深ノ相乘積ニ船質ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタルモノトス

鋼船 ○・六一

木船 ○・五五

上甲板上又ハ舷端以上蔽圍シタル場所ノ積量ヲ算定スルニハ各場所ノ内法ノ平均ノ長、幅及高ヲ相乘シテ得タル容積ヲ加フヘシ

第八條 總積量ヨリ推進機關ヲ有セサル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シタルモノ、推進機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ總積量ノ百分ノ二十ヲ控除シ且機關室ノ積量ノ一倍四分ノ三及總積量ノ百分ノ四十四ノ内小ナルモノヲ控除シタルモノヲ純積量トス
機關室ノ積量ヲ算定スルニハ車軸室ノ部分ヲ除キ上甲板下又ハ舷端以下ニ於ケル機關室ノ内法ノ平均ノ長、幅及深ヲ相乘スヘシ
第九條 形狀複雑ナル場所ノ積量ハ其ノ場所ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ算定シタル容積ヲ加ヘ又ハ之ニ準スル方法ニ依リ算定スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ノ申請ニ基ク船舶ノ積量ノ測度ハ大正三年七月遞信省令第十六號船舶積量測度規程ニ依ルコトヲ得

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數船改測規則

○石數船改測規則

昭和七年四月十一日
逓信省令第十一號

第一條 昭和六年法律第六號附則第三條ニ掲クル船舶ハ本令施行ノ日ヨリ二年以内ニ其ノ積量ノ改測ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ船舶ノ所有者ハ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ船舶ノ番號、船名、船籍港、積石數、改測ノ爲臨檢ヲ受ケムトスル場所及本令ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載シタル改測ノ申請書ヲ差出スヘシ

第三條 改測ヲ行ヒタル管海官廳カ當該船舶ノ船籍港ヲ管轄セサル場合ニ於テハ該管海官廳ハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第四條 前二條ノ規定ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五條 前條ノ船舶ノ改測ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年七月十七日施行ノ日ヨリニ至ル期間ニ於テハ
 第五條 前條ノ規定ニ依リて改測ニ付テハ其ノ改測ノ期ニ至ル
 第四條 前二條ノ規定ハ船舶積量二百噸未満ノ汽船ニハ之ヲ適用ス
 第三條 汽船及總噸數四十噸以上八十噸未満ノ帆船
 第二條 汽船及總噸數四十噸以上八十噸未満ノ帆船
 第一條 本令ハ船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ行フ場合ニ之ヲ適用ス

○船舶積量改測規則

大正三年七月十七日(同年十月一)
 逕信省令第十七號(日ヨリ施行)

○船舶積量改測規則

大正三年七月十七日(同年十月一)
 逕信省令第十七號(日ヨリ施行)

- 第一條 本令ハ船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ行フ場合ニ之ヲ適用ス
- 第二條 船舶ノ積量ノ改測ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ
- 一 本令施行ノ日ヨリ大正四年九月三十日ニ至ル期間
 遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス汽船、近海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數千噸以上ノ汽船及總噸數八十噸以上ノ帆船
 - 二 大正四年十月一日ヨリ大正五年九月三十日ニ至ル期間
 近海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數千噸未満ノ汽船、沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數百噸以上ノ汽船及總噸數四十噸以上八十噸未満ノ帆船
 - 三 大正五年十月一日ヨリ大正六年九月三十日ニ至ル期間
 沿海航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數百噸未満ノ汽船、平水航路ヲ航路定限ト爲ス汽船及總噸數四十噸未満ノ帆船
 - 四 大正六年十月一日以後
 前各號ノ期間内ニ改測ヲ了ラサル船舶及前各號ニ掲ケサル船舶
 改測ハ定期検査ト同時ニ之ヲ行フ但シ船舶検査法ノ適用ヲ受ケサル船舶ノ改測ノ時期ニ付テハ船舶所有者ノ申請ニ因リ管海官廳之ヲ指定ス

第一項各號ニ掲クル船舶ニシテ當該期間内ニ定期検査ヲ受ケサルモノノ改測ハ順次次ノ期間ニ於テ之ヲ行フ

船舶所有者ヨリ特別ノ事由ヲ具シ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ相當ト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ拘ラス改測ヲ行フコトヲ得

第三條 改測ヲ受クヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受ケサルモノノ所有者ハ前條第一項各號ノ期間内ニ於テ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ改測ノ申請書ヲ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ船舶ノ番號、種類、船名、船籍港、總噸數、改測ノ爲検査官吏ノ臨檢ヲ受ケムトスル場所及船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ前條第四項ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第四條 船籍港ヲ管轄セサル管海官廳ニ於テ改測ヲ行ヒタルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第二條第一項各號ニ定ムル期間内ニ前項ノ關係書類ヲ送付スルコト能ハサルトキハ當該官廳ハ豫メ其ノ旨ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スヘシ

第五條 船舶所有者ニ於テ第三條ノ申請ヲ爲ササル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ職權ヲ以テ適宜ノ時期ニ於テ其ノ改測ヲ行フヘシ

前項ノ規定ニ依リ改測ヲ行フ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第六條 前四條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ之ヲ適用セス

第七條 前條ノ船舶ニ付テハ地方長官其ノ定ムル所ニ依リ本令施行後五年以内ニ其ノ積量ヲ改測ス

（Faint, mostly illegible text, likely a translation or official notice related to the shipping regulations.)

○日英間船舶積量承認

明治十八年五月
外務省告示第五號

英國政府ニ於テ本年一月二十七日附内閣訓令ヲ以テ明治十七年（西曆千八百八十四年）七月一日以後日本國官廳ヨリ下附セシ噸數證書若クハ其他噸數ヲ記載スル公書ヲ所有スル日本國船舶ハ英國版圖内ノ諸港若クハ各所ニ於テ更ニ其船積ノ測度ヲ要セサル旨ヲ布達アリシ趣本邦駐劄英國特命全權公使ゼ、オノレーブル、エフ、アールブランケツト閣下ヨリ本年四月四日附ヲ以テ我政府ニ通知アリタリ

○日英間船舶積量互認

大正十二年六月
遞信省令第五二號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十二年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス
英國相當官憲ニ於テ千八百九十五年一月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル英國船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

○日英船舶積量互認ニ關スル告示

大正十二年六月
遞信省告示第九九三號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ英國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ其ノ積量ヲ測定セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ英國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

○日英間船舶積量互認

大正十二年六月

全日本船主、本國船舶積量ニ關シ、英國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ、日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ英國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ其ノ積量ヲ測定セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ英國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

○日英間船舶積量承認

大正十三年五月三十日
遞信省告示第七八一號

○日米船舶積量承認

大正十三年五月三十日
遞信省告示第七八一號

船舶積量測定ニ關スル米國法規ハ我法規ト實質的ニ一致スルモノト認メラレ且米國政府ハ商務長官ノ訓令ヲ以テ互認ノ趣旨ニ基キ米國各港ニ於テ帝國船舶ノ積量ヲ測定スルコトナク其ノ受有スル船舶積量測定ニ關スル證書記載ノ噸數ヲ其ノ儘承認セルニ依リ米國相當官憲ノ發給シタル船舶積量測定ニ關スル證書ヲ受有スル米國船舶ハ帝國各港ニ於テ其ノ積量ヲ測定スルコト無ク其ノ證書記載ノ噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス
明治三十年五月遞信省告示第三百三十八號ハ之ヲ廢止ス

明治二十五年三月三日...
○日米諸國船舶積量互認
大正十三年五月二十日

○日丁間船舶積量互認

明治二十四年十二月
遞信省令第十五號
(明治二十五年一月一日ヨリ施行)

- 第一條 西歷千八百六十七年十月一日以降丁抹國政府ヨリ發シタル登簿國籍證書ヲ受有スル同國ノ船舶ハ外國貿易ノ爲メ開キタル帝國諸港ニ於テ其積量ヲ測度スルコトナシ
- 第二條 第一條ノ登簿國籍證書ニ記載シタル丁抹國帆船ノ實噸數ハ帝國帆船ノ登簿實噸數ト同一ナリト認ムヘシ
- 第三條 丁抹國汽船ノ受有スル第一條ノ登簿國籍證書補録欄内ニ記載ノ英國測度法ニ據リ算出シタル實噸數ハ帝國汽船ノ登簿實噸數ト同一ナリト認ムヘシ

○日丁船舶積量互認心得方

明治二十四年十二月
遞信省告示第二百八十二號

船舶積量互認ノ件ニ關シ明治二十四年十二月一日帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治二十五年一月一日以後帝國船舶ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規則實施以降交付シタル登簿船免狀ヲ有スルモノハ丁抹國「ドロイ」諸島「イスランド」及ヒ丁抹領「アンチル」諸島ノ各港ニ於テ其積量ヲ測度セラルルコトナク帆船ニ在リテハ右登簿船免狀ニ記載スル登簿噸數ヲ以テ丁抹國船舶ノ實噸數ト同一ナリト認メラレ汽船ニ在リテハ右登簿船免狀ニ記載シタル機關室ノ積量ノミヲ丁抹國測度法ニ依リ控除スヘキ爲メ前記諸港ニ於テ其測度ヲ受クヘシト雖之カ爲メ測度料若クハ手数料等ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

○日丁間船舶積量互認

大正十一年九月
遞信省令第五六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル
丁抹國船舶ハ帝國諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

○日丁間船舶積量互認ニ關スル告示

大正十一年九月
遞信省告示第一六八七號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ大正十一年十月一日以後日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ丁抹國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ丁抹國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

○日丁間船舶積量互認

昭和四年六月
遞信省令第十七號

獨逸國相當官憲ニ於テ千八百九十五年七月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル獨逸國船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月遞信省令第七十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○日獨間船舶積量互認ニ關スル告示

昭和四年六月
遞信省告示第一六五八號

昭和四年六月一日以後日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スルモノハ獨逸國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ積量ヲ測度セラルルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ヲ獨逸國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

明治三十三年九月遞信省告示第三百八十四號ハ昭和四年六月一日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十五年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有
スル瑞典國ノ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數
ニ瑞典國ノ法令ニ依リ控除シタル部分ニシテ帝國ノ船舶積量規則ニ依レハ控除ヲ許ササルモノ
ノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 千八百八十一年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有
スル瑞典國ノ汽船ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數
ニ帝國ノ船舶積量測度規則ニ依レハ控除ヲ許ササル部分ニシテ該證書ニ其ノ控除ヲ明示シタル
場所ノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス但瑞典國汽船ノ船長ヨリ
申請アルトキハ特ニ帝國ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シ
テ其ノ登簿噸數ヲ算定ス

船舶積量測度證書ニ英吉利式ニ依リ測定シタル登簿噸數ノ記載アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ
拘ラス該噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第三條 千八百九十三年十月一日以後諾威國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有スル
諾威國ノ汽船又ハ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿
噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

○日瑞、諾間船舶積量互認

明治三十五年三月
遞信省令第十一號
(明治三十五年四
月一日ヨリ施行)

第一條 千八百七十五年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有
スル瑞典國ノ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數
ニ瑞典國ノ法令ニ依リ控除シタル部分ニシテ帝國ノ船舶積量規則ニ依レハ控除ヲ許ササルモノ
ノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條 千八百八十一年三月三十一日以後瑞典國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有
スル瑞典國ノ汽船ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數
ニ帝國ノ船舶積量測度規則ニ依レハ控除ヲ許ササル部分ニシテ該證書ニ其ノ控除ヲ明示シタル
場所ノ噸數ヲ合セタルモノヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス但瑞典國汽船ノ船長ヨリ
申請アルトキハ特ニ帝國ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シ
テ其ノ登簿噸數ヲ算定ス

船舶積量測度證書ニ英吉利式ニ依リ測定シタル登簿噸數ノ記載アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ
拘ラス該噸數ハ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第三條 千八百九十三年十月一日以後諾威國政府ニ於テ交付シタル船舶積量測度證書ヲ受有スル
諾威國ノ汽船又ハ帆船ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿
噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

○日瑞、諾間船舶積量互認心得方

明治三十五年三月
遞信省告示第七十四號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト典瑞及諾威兩國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治三十五年四月一日以後日本ノ汽船若ハ帆船ニシテ明治十七年四月二十四日第十號布告船舶積量測度規則實施以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀又ハ船艦札ヲ受有スルモノハ瑞典國又ハ諾威國ニ於テ左ノ取扱ヲ受クヘシ

一 瑞典國

帆船ハ其積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免狀又ハ船艦札ニ記載スル登簿噸數ヲ瑞典國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ
汽船ハ瑞典國政府ニ於テ其ノ控除スヘキ噸數ヲ定ムル爲メ同國ノ法令ニ從ヒ機關室ノ部分測度ヲ行ヒ登簿噸數ヲ算定セラルヘシ但シ帝國管海官廳ヨリ交付シタル獨逸式ニ依リ測定シタル機關室ノ總積量證書ヲ受有スル汽船ハ部分測度ヲ行フコトナク該證書ニ記載スル噸數ニ登簿噸數ヲ算定セラルヘシ汽船又ハ帆船ノ船長ハ帝國ノ船舶積量測度規則ニ於テ控除ヲ許ササル部分ニシテ瑞典國ノ法令ニ於テ控除ヲ許ス部分ニ付再測度ノ請求ヲ爲ストキ其ノ部分ノ測度ヲ受クルコトヲ得ヘシ

二 諾威國

汽船又ハ帆船ハ其ノ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書、登簿船免

狀又ハ船艦札ニ記載スル登簿噸數ヲ諾威國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

○日露間船舶積量互認

昭和四年九月十日
（昭和四年九月十日）
遞信省令第三十三號
（五日ヨリ施行）

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦相當官憲ニ於テ千九百二十三年十月十日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス
本令ハ昭和四年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十三年三月遞信省令第五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○日露船舶積量互認ニ關スル告示

昭和四年九月十日
遞信省告示第二四一八號

（昭和四年九月十日）
（五日ヨリ施行）

昭和四年九月十五日以後日本船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スルモノハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦版圖内ニ於テ積量ヲ測度セラルルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ヲ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

明治四十三年三月遞信省告示第二四十三號ハ昭和四年九月十五日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十五年六月十五日
遞信省告示第五百七十號

○日蘭間船舶積量互認ニ關スル告示

明治四十五年六月十五日
遞信省告示第五百三十三號

○日蘭間船舶積量互認

○日蘭間船舶積量互認

明治四十五年六月十五日
遞信省告示第五百三十三號
(明治四十五年七月一日ヨリ施行)

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ左ノ條規ヲ定メ明治四十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス和蘭國政府ニ於テ千八百七十五年八月二十一日及千八百九十九年九月十八日付勅令海船積量測度規則ニ依リ測度シ千八百九十九年十月二十日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル和蘭國船舶竝千九百二年一月三日以後交付シタル公正積量證書ヲ有スル西洋形蘭領印度船舶ハ帝國諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ハ日本船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

○日蘭間船舶積量互認心得方

明治四十五年六月十五日
遞信省告示第五百七十號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト和蘭國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ明治四十五年七月一日以後日本船舶ニシテ明治十七年七月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ和蘭國及蘭領印度ニ於テ其ノ積量ヲ測度セラルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル登簿噸數ヲ和蘭國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ但シ前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第四條ノ二 船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道府縣名支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ在リテハ船籍港ヲ管轄スル領事館ノ所在地名及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其ノ他久シキニ耐ユル方法ニ依リ高幅共十センチメートル以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道府縣名又ハ領事館ノ所在地名ハ國字、船鑑札番號ハ亞刺比亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記ス場合ニ於テ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之ヲ省略スヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有

者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス
船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之カ改測ヲ爲スヘシ

第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滞ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タズ遲滞ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但シ前項ノ場合ニハ此ノ限ニ在ラス

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ再交付ヲ申請スヘシ
 第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ
 第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

- 一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
 - 二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ
 - 三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノト爲リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ
- 前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ヲ引換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨檢セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示ノ改訂ヲ爲サシムヘシ

第十五條 第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十五條ノ二 本令ニ於テ地方官廳ノ事務ハ支那ニ在リテハ日本ノ領事館之ヲ行フ

附 則

第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十九年十二月遞信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年内ニ於テ地方長官ノ定ムル期間内ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間内ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要スルトキハ遲滞ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條、第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則 (大正二年九月省令第八八號)

本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本令ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ
本令施行前ニ船舶國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリタル船舶ニ付テハ船鑑札規則第十二條第一項
ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附 則 (大正十一年七月省令第三九號)

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ大正十一年十二月三十一日迄本令ノ施行ヲ猶豫ス

附 則 (昭和七年四月省令第九號)

第一條 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ昭和九年六月三十日マテ其ノ效力ヲ妨ケラルルコト
ナシ

第三條 従前ノ規定ニ依リ噸數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船籍港ヲ
管轄スル地方官廳ハ昭和九年六月三十日マデニ船舶所有者ノ申請ヲ俟タスシテ船鑑札ヲ書換交
付ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ石數船改測規則ニ從ヒ地方長官ノ
定ムル所ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルトキハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ハ船舶所有者ノ申請ヲ
俟タスシテ船鑑札ヲ書換交付ス

船舶所有者前二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク舊船鑑札ヲ返還スヘシ

(第一號書式)

船鑑札交付申請書

- 一 船 種 (汽船、帆船ノ別) 船名
- 二 船 籍 港 (當該市町村名)
- 三 進水ノ年月
- 四 尺 度 (船ノ長、幅、深)
- 五 機關ノ種類 (汽機、發動機、電動機ノ別)
- 六 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分
- 七 測度ヲ受ケントスル場所
- 八 申請ノ事由 (新造、外國船購入等)

右船舶新造(又ハ何國人何某ヨリ買受等)候ニ付船鑑札交付相成度此段及申請候也

年 月 日

地方官廳宛

住所 氏 名 印

○船鑑札規則施行手續

明治四十年五月二十三日
逕信省訓令第一號

改正 大正二年九月 大正二年十月
訓令第一號 一日ヨリ施行

大正三年九月 大正三年十月
訓令第二號 一日ヨリ施行

昭和七年五月 昭和七年六月二
訓令第二號 十日ヨリ施行

第一條 地方官廳ハ第一號書式ノ船鑑札臺帳ヲ備置キ船鑑札規則ニ依リ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ
件名及船鑑札ノ交付、書換、再交付若ハ返還ノ年月日並事由ヲ記載スヘシ

船鑑札規則第十二條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還アリタルトキハ同項各號ノ事實アリタル
ヤ否ヲ審査シ必要ト認ムルトキハ實地臨檢シタル上船鑑札臺帳中當該船舶ニ對スル記載面ニ消
印ヲ押捺シテ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

船鑑札臺帳ニ索引ヲ附スヘシ

第二條 船舶ニハ番號ヲ點附シ之ヲ船鑑札及船鑑札臺帳ニ記載スヘシ

第三條 船鑑札規則第八條第二項又ハ同則第九條第一項ノ規定ニ依リ乙地方官廳ニ於テ通知ヲ受
ケ又ハ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケ船鑑札ヲ交付シタルトキハ其ノ旨遲滯ナク甲地方官廳ニ
通知スヘシ

甲地方官廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ船鑑札臺帳中當該船舶ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第四條 地方官廳ニ於テ船鑑札規則第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ船鑑札ノ返還ヲ受ケ
タルトキハ遲滯ナク之ヲ廢棄スヘシ

第五條 地方官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ船舶法ノ適用ヲ受クヘキモノト爲リタルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滯ナク船鑑札臺帳ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ管轄管海官廳ニ通知スヘシ

第六條 管海官廳ニ於テ船舶ヲ改測シ積量ニ異動アルコトヲ認メタルトキハ速ニ相當手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ告知シ遲滯ナク其ノ旨管轄地方官廳ニ通知スヘシ

船舶法ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ爲シタル船舶船鑑札規則ノ適用ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ船舶原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條 削除

第八條 地方官廳ハ毎年一月中ニ其ノ前年末現在ニ於ケル船鑑札船ノ統計ヲ、尙汽船ニ付テハ毎年一月及七月中ニ其ノ前六箇月間ノ異動ヲ第二號書式ニ依リ遞信省ニ報告スヘシ

第九條 地方長官ニ於テ船鑑札規則ノ施行ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

附 則

第十條 明治二十九年十二月遞信省訓令第四號船鑑札規則施行手續ハ本手續施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十一條 第八條ノ報告ハ本手續施行ノ年ノ七月ニハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第十二條 本手續施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船鑑札規則第十八條ノ規定ニ依リ

新船鑑札ヲ受有スルヲ待タス第二條ニ規定スル番號ヲ點附シ現ニ備附ノ船鑑札臺帳ニ之ヲ記載スヘシ

前項ノ船舶ニ關スル件名ハ別ニ定ムル用紙ニ記載シ本手續施行後三箇月内ニ遞信省ニ報告スヘシ

第一號書式

年	號	種	船	進水ノ年月	年	月	船	船	船
船	船	船	船	船	船	船	船	船	船
船	籍	名	港						
長				米	米	米	米	米	米
幅				米	米	米	米	米	米
深				米	米	米	米	米	米
總	噸	數		噸	噸	噸	噸	噸	噸
純	噸	數		噸	噸	噸	噸	噸	噸

機關ノ種類	所有者ノ住所氏名	船鑑札交付年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日

備考

- 一 船種ノ欄ニハ汽船又ハ帆船ノ別ヲ記載スヘシ
- 二 機關ノ種類ノ欄ニハ汽機、發動機又ハ電動機ノ別ヲ記載スヘシ
- 三 進水ノ年月不明ナルトキハ製造年月ヲ記載スヘシ
- 四 新ニ船鑑札ヲ交付シタル場合又ハ其ノ記載事項ノ變更ニ因リ之ヲ書換ヘタル場合ニハ其ノ年月日ハ船鑑札交付年月日ノ欄ニ、其ノ事由ハ記事欄ニ記載スヘシ
- 五 船鑑札ヲ再交付シタル場合毀損ニ因リ之ヲ書換ヘタル場合又ハ其ノ返還アリタル場合ニハ其ノ年月日及事由ハ記事欄ニ記載スヘシ
- 六 各欄ノ事項中記載スヘキモノナキトキハ斜線ヲ畫シ明カナラサルモノアルトキハ不詳ト記載スヘシ

第二號書式(甲)

船鑑札船統計報告

何年十二月末日現在

種別	汽船				帆船				合計
	汽機ノミヲ有スルモノ	發動機又ハ電動機ノミヲ有スルモノ	帆裝ヲ併セ有スルモノ	小計	帆裝ノミヲ有スルモノ	汽機ヲ併セ有スルモノ	發動機又ハ電動機ヲ併セ有スルモノ	小計	

備考

- 一 本報告ニ記載スル噸數ハ船舶毎ニ單位ニ止メタルモノヲ合算シテ計上スルモノトス
 - 二 當分ノ内石數船ニ付テハ合計ノ項中船數及總噸數ノ欄ニ船數及積石數ヲ夫々朱記スヘシ
- 船鑑札規則施行手續

第二號書式(乙)

汽船異動報告 何年(前又ハ後)期
第一 船鑑札新交付

番號	船名	船籍港	總噸數	純噸數	機關ノ種類	船鑑札交付船鑑札交付事由月日	所有者氏名
----	----	-----	-----	-----	-------	----------------	-------

第二 船鑑札書換

番號	船名	變更事項	新	舊	船鑑札書換事由月日	船鑑札書換月日	所有者氏名
----	----	------	---	---	-----------	---------	-------

第三 船鑑札返還

番號	船名	船鑑札返還事由	船鑑札返還月日	所有者氏名
----	----	---------	---------	-------

備考

- 一 本報告ハ毎年一月乃至六月ヲ前期トシ七月乃至十二月ヲ後期トス
- 二 船鑑札交付事由欄ニハ新造、外國船購入、何府縣ヨリ轉入、登簿船ヨリ編入等船鑑札ヲ交付シタル原

- 因フ記載シ且他府縣ヨリ轉入ノ場合ハ前地方官廳ニ於ケル番號及船名ヲ併記スヘシ
- 三 船鑑札ノ書換ヲ爲スモ第一書式ノ事項ニ變更ナキトキハ報告スルニ及ハス
 - 四 船名又ハ所有者ニ變更アリタルトキハ各相當欄ハ空欄ノ儘トシ變更事項欄ニ新舊船名又ハ新所有者名ヲ記載スヘシ
 - 五 船鑑札返還事由欄ニハ滅失、沈没、解撤、國籍喪失、存否不明、何府縣へ轉出、登簿船ニ編入等船鑑札ヲ返還シタル原因ヲ記載スヘシ
 - 六 船鑑札規則第八條及第九條ノ場合ニ於テハ船鑑札臺帳ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキヲ以テ船鑑札ノ返還アリタルモノトシテ報告スヘシ
- 附 則
- 本手續ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 船鑑札臺帳ノ書式ハ昭和七年四月遞信省令第九號附則第三條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換ヲ爲スマテ尙従前ノ例ニ依ル

○船鑑札事務ノ取扱ニ關スル注意

明治四十年五月
管發亂第三三九號通牒

改正〔明治四十一年二月 明治四十四年一月 大正三年九月 昭和七年六月十三日〕
乾第六五號通牒 乾第二二號通牒 乾第三四三號通牒 船底第三六四號通牒

第一 積量 測度

- 一 積量測度ノ執行正確ヲ缺クトキハ實際總噸數二十噸以上ノ船舶(殊ニ帆船)ニシテ船鑑札ヲ受有シ船舶法、船舶検査法、船舶職員法其ノ他ノ法規ノ適用ヲ避クルニ至リ取締上不都合尠ナカラス新規則施行以後ハ測度ヲ精密ニ執行スル様注意アルヘシ
- 二 積量測度其ノ他船鑑札規則ノ施行ニ關シ疑義アルトキハ遞信省管船局又ハ最寄管海官廳ニ照會セラレタシ又隨時主任者ヲ管海官廳ニ派遣シ測度其ノ他技術上ノ事項ヲ講習セシムルカ如キハ頗ル良法ナルヘク管海官廳ハ之ニ對シ相當ノ便利ヲ圖ルヘシ
- 三、四 削除
- 五 船鑑札規則第三條ノ場合ニ於テ其ノ船舶他地方官廳ノ管内ニ在ルトキハ甲地方官廳ハ該船舶ノ積量ノ測度ヲ乙地方官廳ニ囑託スルコトヲ得
- 六 前項ノ場合ニ於テ船舶所有者ヨリ直接乙地方官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請シタルトキハ乙地方官廳ハ測度執行ノ上積量ニ關スル證明書ヲ交付スヘキモノトス此ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ之ヲ船鑑札規則第二條第二項ノ證明書ト認メテ處理スヘキモノトス
- 七 船鑑札規則第二條第二項ノ證明書ニハ船鑑札ニ記載スヘキ尺度及積量ヲ記載スヘキモノトス

八 尙右ノ證明書ニ機關ノ種類ヲ記載スルニ於テハ船鑑札規則第三條但書ノ適用上便利ナルヘシ
削除

第二 船 鑑 札

一 船鑑札規則第一條ノ船舶ト雖モ航行ノ用ニ適セサル構造ヲ有スルモノハ鑑札ヲ受有スルコト
ヲ要セス

二 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ト雖モ日本ニ船籍港ヲ定メ鑑札ヲ受有スルコトヲ要ス

三 漁船ト雖モ船鑑札規則第一條ニ該當スルモノハ鑑札ヲ受有スルコトヲ要ス

四乃至八 削除

九 鑑札ニ記載スヘキ進水年月不明ナル場合ニハ製造年月ヲ以テ進水年月ト看做シ之ヲ記載スヘ
キモノトス

十 鑑札面ノ所有者住所ハ番地マテ、尺度及噸數ハ單位下第二位ニ止メ第三位ハ四捨五入シタル
モノヲ記載スヘキモノトス

十一 支廳、市、町、村ニ於テ船鑑札事務ヲ取扱フ場合ニ於テモ鑑札ニハ必ス府縣名ヲ記シ之ニ
相當スル烙印ヲ捺スヘキモノトス

十二 鑑札ヲ書換又ハ再交付スル場合ニハ鑑札ニ之ヲ作成シタル年月日ヲ記載シ其ノ下ニ「書換」

又ハ「再交付」ト朱記スヘキモノトス

十三 削除

十四 府縣ニ依リテハ徵稅上ノ關係等ヨリシテ別ニ船鑑札似寄ノ鑑札ヲ船舶ニ交付セル趣ナルモ
斯クテハ彼此ノ混淆ヲ生スル虞アルニヨリ右ハ一見識別シ易キ様寸法其ノ他ノ形式ヲ定メラ
レタシ

第三 船 舶 番 號

一 船名ハ之ヲ同ウスルモノ多ク又之ヲ變更スルコト頻繁ナルヲ以テ船名ノミニテハ當該船舶ノ
何レナルヤヲ區別シ難キ場合アルニヨリ番號ヲ以テ區別ノ標準ト爲スヘシ

二 番號ハ新ニ船鑑札ヲ交付スル毎ニ順次ニ之ヲ點附シ支廳、市、町、村ノ別若ハ汽船、帆船ノ
別又ハ船鑑札交付ノ年月ニ依リテ各新ナル番號ヲ起スヘカラス

三 船鑑札規則ノ事務ヲ支廳、市、町、村ニ委任スルトキハ府縣ニ於テ船舶番號配付簿ヲ備ヘ豫
メ適當ノ數ヲ限リ番號ヲ市郡ニ配付シ置クヘシ例ヘハ甲市ニハ一號ヨリ五十號マテ乙市ニハ

五十一號ヨリ百號マテト配付スルカ如シ支廳、市、町、村ニ於テ配付ヲ受ケタル番號ノ殘餘
僅少ト爲リタルトキハ府縣ニ請求シテ更ニ其ノ配付ヲ受ケシムヘシ

四 番號ハ船舶カ當該府縣ニ存在スル限りハ假令船鑑札ヲ書換又ハ再交付スルコトアルモ之ヲ改
ムヘカラス故ニ番號ニ變更ヲ來スハ他ノ府縣ヘ轉籍シタル爲メ更ニ其ノ府縣ノ番號ヲ受クル
場合ニ限ル

五 削除

六 船鑑札規則施行手續第一條第二項又ハ第三條第二項ノ手續ヲ爲シタル船舶ノ番號ハ再ヒ他ノ船舶ニ點附スヘカラス但同一船舶ニ對スル場合(沈没船ヲ引揚ケ再用シタル場合又ハ他府縣ヘ轉籍シタル船舶再ヒ轉入シタル場合等)ニハ舊番號ヲ點附スヘシ

七 前項但書ノ場合ニ於テ舊番號不明ナルトキハ新番號ヲ點附スルモ妨ナキモノトス

第四 船鑑札臺帳

- 一 臺帳ハ府縣ニ備付クルコトヲ原則トス若シ船鑑札ノ事務ヲ支廳、市、町、村ニ委任スルトキハ別ニ同様式ノ臺帳ヲ支廳、市、町、村ニ備置カシムヘシ
- 二 臺帳ハ一枚ヲ一隻ノ船舶ニ使用シ汽船、帆船ノ別ニヨリ番號順ニ整理スヘシ
- 三 臺帳ニ記載スル尺度及噸數ハ單位下第二位ニ止メ第三位ハ四捨五入シタルモノヲ記載スヘシ
- 四 削除
- 五 臺帳ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ舊事項ヲ朱抹シ左ノ區別ニ從ヒテ新事項ヲ記載シ記事欄ニ變更ノ事由ヲ記載スヘシ
 - 一 始メテ變更アリタル場合ニハ朱抹シタル欄ノ次欄ニ新事項ヲ記載スヘシ
 - 二 第二回ニ變更アリタル場合ニハ前號ニ依リ記載シタル欄ノ次欄ニ新事項ヲ記載スヘシ
 - 三 第三回及第四回之ニ做フ
- 六 變更五回ニ及ヒ用紙ニ餘白ナキニ至リタルトキハ其ノ現存事項ヲ新ナル臺帳用紙ニ移記スヘシ

シ此ノ場合ニ於テハ前用紙ノ欄外ニ「第一葉」ト記シ其ノ末尾ノ記事欄ニ第二用紙ニ移記シタル旨ヲ附記シ新ナル用紙ノ欄外ニ「第二葉」ト記載シ其ノ最初ノ記事欄ニ第一葉ヨリ移記シタル旨ヲ附記スヘシ第三葉以下亦之ニ做フ

- 七 臺帳記載事項ノ訂正ヲ要スルキトハ次欄ニ移スコトヲ爲サス各其ノ記載欄ニ於テ朱記訂正シ記事欄ニ訂正ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ
- 八 臺帳記載事項ニ變更ナク單ニ船鑑札ノ書換(鑑札毀損ノ場合、又ハ再交付鑑札滅失ノ場合)ヲ爲シタルトキハ記事欄ニ書換又ハ再交付ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ
- 九 記事欄ノ記載事項ハ簡明ナルコトヲ要ス例ヘハ新ニ船鑑札ヲ交付シタル場合ニハ内國新造、外國ヨリ購入、何府縣ヨリ轉入等ト記載シ船鑑札ヲ書換ヘタル場合ニハ賣買、修繕、轉籍等ト記載シ書換以外ノ場合ニ船鑑札ヲ返還シタル場合ニハ沈没、解撤等ト記載シ又船鑑札規則施行手續第三條第二項ニ依リ船鑑札臺帳ノ用紙ヲ閉鎖シタル場合ニハ何府縣ヘ轉出等ト記載スルカ如シ
- 十 船鑑札規則ノ事務ヲ支廳、市、町、村ニ委任スルトキハ支廳、市、町、村ニ於テ臺帳ニ記載ヲ爲ス毎ニ遲滞ナク其ノ臺帳ノ謄本又ハ抄本ヲ府縣ニ送付セシメ府縣ニ於テハ之ニ依リ直ニ臺帳ヲ整理スヘシ
- 十一 臺帳索引ハ汽船、帆船ニ分チ別冊トシ船名ノ頭字ノ音ニ依リ伊、呂、波別ニ區分シ船名、番號及備考欄ヲ設ケ一船毎ニ其ノ番號、船名ヲ記載スヘシ船名ノ變更ニ依リ他ノ部ヘ移記シ

タルトキ又ハ船籍ヲ抹消シ臺帳ヲ閉鎖シタルトキ備考欄ニ其ノ事甲ヲ記載ノ上當該欄ヲ朱抹スヘシ

十二 臺帳ノ謄本ヲ作成スルニハ朱抹セル事項即現存セル部分ノミヲ謄寫スヘキモノトス

十三 他府縣ヨリ轉入シタル船舶ヲ船鑑札臺帳ニ記載スルトキハ記事欄ニ舊番號並船名ヲ記載シ以テ前後ノ聯絡ヲ明ニスヘシ

第五 轉 籍

一 從來ノ經驗ニ依レハ甲地方官廳ハ船舶所有者ノ轉籍ノ申出ニ依リテ直ニ當該船舶除籍ノ取扱ヲ爲スニ拘ラス右所有者ハ其ノ轉籍先ヲ管轄スル乙地方官廳ニ何等ノ手續ヲ爲サシテ打過キ其ノ結果該船舶ハ無籍同様ト爲ルコト尠シトセス新規則ニ於テハ轉籍ニ關スル取扱方ヲ改メタルヲ以テ轉籍ノ申請アリタルトキハ甲地方官廳ハ所有者ニ對シ乙地方官廳ヨリ新船鑑札ヲ受領スヘキコトヲ注意シ又乙地方官廳ハ所有者ヲシテ其ノ手續ヲ履行セシムル様注意セラレタシ

二 船鑑札規則ノ事務ヲ支廳、市、町、村ニ委任スルトキハ支廳、市、町、村間ノ轉籍ニ關スル手續ハ府縣間ノ轉籍ニ關スル規定ニ準シテ之ヲ定メ以テ事務ノ統一ヲ期セラレタシ

三 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ハ之ヲ書換フルコトヲ要セス又船鑑札臺帳ニハ何等ノ記載ヲ爲スコトヲ要セス

四 船鑑札規則第九條第一項ニ依リ乙地方官廳ニ於テ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ

新船鑑札交付ノコトヲ所有者ニ通知スヘシ

五 削除

六 所有者其ノ他ノ事項ニ變更アリタルト同時ニ船籍港ヲ甲地方官廳ノ管内ヨリ乙地方官廳ノ管内ニ變更シタルトキハ甲地方官廳ハ先ツ所有者其ノ他ノ事項ニ付キ變更ノ手續ヲ爲シタル上轉籍ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第六 雜 件

一 從來ノ船鑑札規則施行ノ狀況ヲ見ルニ府縣ニ依リテ寬嚴精粗其ノ程度ヲ異ニシ或ル地方官廳ニ於テ取締上ニ注意ヲ加フルトキハ所有者ハ直ニ船籍ヲ他ノ管内ニ移シテ之ヲ避クル等ノ不都合ヲ生スルコトアリ將來ハ各府縣トモ步調ヲ一ニシテ取扱ハレタシ

二 削除

三 削除

四 削除

五 船鑑札規則第十三條ニ掲クル船舶ハ總噸數二十噸未滿ノ汽船ヲ謂フ

六 外板及肋骨ノ大半ヲ船體ヨリ撤去シタル場合ヲ解散ト看做スヘシ

七 外國ニ於テ本邦人ノ新造又ハ購入シタル小形船舶ニハ船鑑札受有ニ至ルマテ領事ニ於テ假船鑑札ヲ交付シ差支ナキコトニ取扱ヒ來レリ故ニ外國ヨリ回航ノ小形船舶中之ヲ受有セルモノアルヘシ

○巴拿馬運河噸數證書交付規則

大正四年二月十五日
逕信省令第十號

改正(大正四年十月(同年十月十二日)省令第四五號(日ヨリ施行) 大正十年三月五日(昭和七年四月十一日)省令第七號改正 省令第十三號(日ヨリ施行)

- 第一條 日本船舶ノ所有者ニシテ亞米利加合衆國政府ニ於テ千九百十三年十一月二十一日發布シタル巴拿馬運河船舶測度規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附録書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第二條 前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受タルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ
- 第三條 管海官廳ニ於テ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ巴拿馬運河船舶測度規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製セシメ之ヲ申請者ニ交付スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ差出サシムルコトヲ得
- 第四條 噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附録書式ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第五條 噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生シタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書換ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ

之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

噸數證書ノ滅失ニ因リ其ノ再交付ヲ申請セムトスルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ噸數證書ヲ調製セシメ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

第六條 噸數證書カ不用トナリタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ二 噸數證書ニ記載シタル事項カ巴拿馬運河官憲ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當該船舶カ内地ニ歸航シタル後遲滞ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ届出ト同時ニ噸數證書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ噸數證書ヲ査閲セシメタル後遲滞ナク之ヲ船舶所有者ニ返還スヘシ

第七條 船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄測度手数料等ニ定ムル測度手数料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖モ測度著手後ナルトキハ測度手数料ヲ徴收ス改測ノ場合亦同シ

第八條 噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

第九條 第二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ
手数料納付書ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第十條 本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 本令ハ朝鮮臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶及外國船舶ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正四年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十年二月省令第七號)

本令ハ大正十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前測度ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 測度手数料表

測 度 種 類	船 舶 總 噸 數	
	汽 船 及 機 關 船	帆 船
新 規 測 度	三噸以上	三噸以上
	三噸以上	三噸以上
改 又 全 部 測 度	三噸以上	三噸以上
	三噸以上	三噸以上
機 關 船	七圓	五圓
	十圓	七圓
汽 船 及 機 關 船	十圓	十圓
	十五圓	十五圓
帆 船	二十圓	二十圓
	二十五圓	二十五圓
機 關 船	三十圓	三十圓
	四十圓	四十圓
汽 船 及 機 關 船	五十圓	五十圓
	六十圓	六十圓
帆 船	七十圓	七十圓
	八十圓	八十圓
機 關 船	百圓	百圓
	以上	以上

一部改測	汽船及機關 有スル帆船	三圓	五圓	七圓	二千噸以上十圓
	機關ヲ有セザ ル帆船	二圓	三圓	五百噸以上五圓	

備考

- 一 測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手数料ヲ納付スヘシ
- 二 第七條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手数料ヲ納付スヘシ

書式

巴拿馬運河噸數證書交付(書換)申請書

汽(帆)船何丸

右巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依リ 年 月 日某所ニ於テ測度(改測)執行ノ

上噸數證書交付(書換)相成度此段及申請候也

年 月 日

住所

所有者 何

某 印

管海官廳宛

○巴拿馬運河噸數證書交付規則第十條ノ規定ニ
依リ同規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度

執行地

大正八年八月 改正(昭和二年十月)
 逓信省告示第一〇五八號 逓信省告示第二二六四號
 改正(昭和七年七月)
 逓信省告示第一三三八號

管海官廳

- 東京 逓信局
- 東京逓信局海事部横濱出張所
- 東京逓信局海事部浦賀出張所
- 名古屋 逓信局
- 大阪 逓信局
- 大阪逓信局海事部神戸出張所
- 廣島 逓信局
- 熊本 逓信局
- 熊本逓信局海事部長崎出張所

測度執行地

- 東京 市
- 横濱 市
- 神奈川縣三浦郡浦賀町
- 名古屋市
- 大阪市
- 神戸市、兵庫縣赤穂郡相生町
- 岡山縣兒島郡日比町、廣島縣御調郡因ノ島
- 山口縣都濃郡笠戸島、同縣豊浦郡彦島
- 長崎 市

巴拿馬運河噸數證書交付規則第十條ノ規定ニ依リ同規則ニ
依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地

前項ノ場合ニ於テハ總噸數、新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別、測度手數料及證書ノ手數料ヲ記載シ又一部改測ノ場合ニシテ測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲモ附記シタル手數料收入報告書ヲ謄本ニ添付スヘシ

第六條 管海官廳ニ於テ巴拿馬運河噸數證書交付規則第五條ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ交付シタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

一 船舶ノ番號及名稱

二 證書ノ日附

三 變更ニ係ル事項

四 證書ノ手數料

第七條 巴拿馬運河噸數證書交付規則第六條ノ規定ニ依リ噸數證書ノ返還ヲ受ケタルトキ又ハ噸數證書ノ滅失ノ届出ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ遞信省ニ報告スヘシ

第七條ノ二 巴拿馬運河噸數證書交付規則第六條ノ二ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ査閲シタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク變更ニ係ル事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

第八條 巴拿馬運河噸數證書交付規則第四條ノ規定ニ依リ改測ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ同規則第五條第二項ノ規定ニ依リ噸數證書ノ再交付ノ申請ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ノ測度明細書寫ノ送付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

○巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ

關スル注意事項

大正四年二月十七日 大正九年十二月十三日
管發乾第七一號通牒 登第四二二號通牒

改正 大正四年十月十一日 昭和七年五月二十六日
管發乾第四七一號通牒 船第七六七號通牒

第一 總 則

一 本通牒中我規則又ハ我規定トハ長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關スル我法規ヲ謂ヒ又巴拿馬規則トハ巴拿馬運河船舶測度規則ヲ、合衆國規則トハ亞米利加合衆國船舶測度規則ヲ謂フ

二 本通牒ニ於テ噸數トハ立方メートルニテ表ハシタル積量ニ〇・三五三ヲ乘シタルモノ又ハ立方呎ニテ表ハシタル積量ヲ百ニテ除シタルモノヲ謂フ

第二 巴拿馬規則ニ依ル噸數

(甲) 總 噸 數

一 巴拿馬規則ニ依ル總噸數ハ我規則ニ依ル總噸數ト相違スル點アルヲ以テ其ノ算定ニ付テハ巴拿馬規則第三條及第四條ノ規定ニ注意スヘシ

二 我規則ニ依リ測度シタル上甲板下ノ噸數ハ巴拿馬規則ニ依リ測度シタルモノト看做ス但シ我規則ニ依リ除外シタル場合ノ噸數ニシテ巴拿馬規則ニ依リ算入スヘキモノアルトキハ之ニ對スル修正ヲ爲スヘシ

巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項(第一)

- 三 遮浪甲板直下ノ甲板間ノ場所ニシテ之ニ貨物又ハ倉庫品ヲ搭載シ得ル程度ニ減噸甲板口ヲ閉鎖シ得ル装置アル場合ニ於テ巴拿馬規則第四條第二號ノ規定ニ依リ舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル部分ヲ除外セサルトキハ該甲板間ノ場所ノ噸數ヲ巴拿馬規則第九條第四號ノ規定ニ依リ算定シ噸數證書ノ相當欄ニ之ヲ記入スヘシ
- 四 特別ノ事由アルカ爲巴拿馬規則第一則ニ依リ測度スルコト能ハサル船舶ニ付テハ同規則第二則ヲ適用シ測度スルコトヲ得
- 五 二重底内ノ場所ニシテ貨物、倉庫品、罐水又ハ石炭其ノ他ノ燃料搭載ニ供用シ又ハ供用シ得ルモノナルトキハ巴拿馬規則第四條第四號ノ規定ニ依リ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入スヘシ該場所ノ噸數ヲ算定スルニハ其ノ平均ノ長、幅及高ヲ乘シタルモノニ依ルヘシ
- 六 船樓内又ハ側室ト圓室(若ハ機關室圍壁)トノ間ニ在ル通路ニシテ上方カ甲板ヲ以テ蔽ハルルトキハ兩端全ク開放セルモノト雖其ノ幅カ該場所ニ於ケル甲板ノ幅ノ二分ノ一以上ナラサル限リ其ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入スルモノナルコトニ注意スヘシ
- 六ノ二 上甲板以上ノ場所ニ在ル圍壁載炭口カ船樓又ハ甲板室内ニ在ルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ該船樓又ハ甲板室ノ噸數ニ包含セシメ別ニ之ヲ算定シテ噸數證書ノ總噸數ノ細目第三號(f)ニ記入スルコトヲ要ス
- 噸數證書ノ總噸數ノ細目第三號(i)以下各項ニ掲クル場所ノ噸數ノ取扱ニ付テモ前項ニ準ス
- 七 艙口ハ其ノ長又ハ幅一メートル未滿ノモノト雖其ノ噸數ヲ總噸數ノ算定ニ加フヘシ

八 總噸數ヨリ除外スヘキ場所ニ付テハ其ノ名稱及總噸數ヨリ除外シタル旨ヲ標示スルコトヲ要ス

(乙) 總噸數ヨリ除外スヘキ場所ノ噸數

- 九 總噸數ヨリ除外スヘキ場所ハ巴拿馬規則第四條ニ掲クルモノニ限ル同條ニハ圖解ヲ添ヘ除外スヘキ場所ノ性質及條件ヲ明記セルモ検査官吏ハ以下各號ノ事項ニ特ニ注意スヘシ
- 十 船樓端ニ出入口アリテ該出入口内ノ船樓ノ部分ノ噸數ヲ總噸數ヨリ除外スヘキ條件ヲ備フル場合ト雖該出入口ニ縁材ヲ付スルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入スヘシ
- 十一 船樓ノ舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル部分ノ噸數ヲ總噸數ヨリ除外スル爲ニハ該開口ノ高ハ九十一センチメートル(三呎)以上ナルコトヲ要ス此ノ規定ハ遮浪甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ巴拿馬規則ヲ適用スル場合ニ之ヲ準用ス
- 十二 上甲板上ニ一層以上ノ船樓甲板ヲ備フル船舶ニ於テ其ノ最下層船樓甲板以上ニ在ル煙突圍壁及機關室ノ採光通風ニ要スル場所ハ相當ノ限域ヲ有シ且固有ノ目的以外ニ使用セサルトキハ其ノ噸數ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ
- 十三 上甲板上ニ船樓甲板ヲ備ヘサルトキハ上甲板以上ニアル煙突圍壁及機關室ノ採光通風ニ要スル場所ハ相當ノ限域ヲ有シ且固有ノ目的以外ニ使用セサルトキハ其ノ噸數ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ
- 十四 出入口室又ハ出入口ノミニ専用スル場所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ但シ出入口室

内ニ喫煙室又ハ出入口以外ノ目的ニ供用セラルル部分アルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入スヘシ

十五 上甲板以上ニ在ル天窗ノ噸數及上甲板以上ニ於テ天窗直下ニ甲板口アルトキハ天窗ト該甲板口トノ間ニ在ル場所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ除外スルコト我規定ニ同シ

(丙) 純噸數ヲ算定スル爲總噸數ヨリ控除スヘキ噸數

十六 總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ純噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ之ヲ控除セサルコト我規定ニ同シ

十七 總噸數ヨリ控除スヘキ場所ニ付テハ巴拿馬規則第十三條ニ掲クル燃料庫トシテ控除スヘキ場所ヲ除クノ外其ノ名稱ヲ標示スルコトヲ要ス

(イ) 機關ヲ有セサル船舶

十八 機關ヲ有セサル船舶ニ在リテハ總噸數ヨリ控除スヘキ場所ハ巴拿馬規則第十條第一號乃至第十號ニ掲クルモノニ限ル右各號ニ控除スヘキ場所ト控除スルコトヲ得サル場所トノ名稱及條件ヲ明記セルモ検査官吏ハ以下各號ノ事項ニ注意スヘシ

十九 事務長、事務員、給仕其ノ他旅客ニ關スル用務ヲ辨スル者ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スルコトヲ得ス但シ旅客室ノ數四箇以下又ハ旅客用寢臺ノ數八箇以下ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二十 飲食料倉庫及「リンネンロツカア」ノ噸數ハ船員ニ專用スルモノト雖之ヲ船員常用室ノ噸數

トシテ總噸數ヨリ控除スルコトヲ得ス

二十ノ二 賄室、食堂、食器室、浴室、洗面所及便所等ニシテ船員ト旅客トニ併用スルモノノ噸數ハ之ヲ船員常用室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スルコトヲ得ス但シ旅客室ノ數四箇以下又ハ旅客用寢臺ノ數八箇以下ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二十一 船長ノ専用スル諸室ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除シ豫備客室及水先案内人ニ供用スル室ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除セサルコト我規定ニ同シ

二十二 帆庫ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ノ制限ハ我規定ニ同シキモ水夫長倉庫ノ噸數トシテ控除スヘキ噸數ノ制限ニ付テハ少シク異ナルヲ以テ注意スヘシ

二十二ノ二 船燈室及塗料室ノ噸數ハ之ヲ水夫長倉庫ノ噸數ニ算入スヘシ

二十三 船員常用室(巴拿馬規則第十條第一號乃至第四號参照)ニ專屬スル通路ノ噸數ハ船員常用室ノ噸數トシテ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

二十四 二重底ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品又ハ石炭其ノ他ノ燃料ヲ搭載スルニ適セサル構造ヲ有スル荷足水艙ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

二十四ノ二 罐水、荷足水、燃料油又ハ浚水ニ專用スル唧筒ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ上甲板下ニ在ルモノト雖之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

二十五 左ニ掲クル場所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

(イ) 錨鎖庫

巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項(第二)

(ハ)(ロ) 大工ノ仕事場
貨物ノ消毒ニ専用スル消毒用瓦斯發生機ニ供用セラルル場所

(ロ) 機關ヲ有スル船舶

二十六 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ機關ヲ有セサル船舶ニ付控除スヘキ場所(イ)參照)ノ外同規則第十二條第二號ニ掲クル機關室其ノ他ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

二十七 機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ五十ヲ超ユルトキハ之ヲ總噸數ノ百分ノ五十ニ止ム但シ曳船ニ専用スル船舶ニハ此ノ制限ヲ付セス(巴拿馬規則第十二條第三號參照)

二十八 罐水ニ専用スル二重底水艙ノ噸數ハ機關室ノ噸數トシテ控除スヘキ噸數ト獨立ニ總噸數ヨリ之ヲ控除スヘシ(巴拿馬規則第十二條第五號參照)

二十九 左ニ掲クル船舶ニ於テ機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ハ機關室ノ實積噸數ニ螺旋推進器ヲ備フルモノニ在リテハ其ノ四分ノ三ヲ外車ヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノトス(巴拿馬規則第十三條參照)

(イ) 移動隔壁ヲ有スル横置炭庫ヲ備フル船舶
(ロ) 貨物若ハ倉庫品ヲ搭載スルニ適スル燃料油庫又ハ二重底燃料油庫ヲ備フル船舶
三十 機關室ノ實積噸數ニ算入スヘキ場所ノ範圍及其ノ測度方法ニ付テハ巴拿馬規則第十三條ノ規定ニ依ルヘシ

三十一 左ニ掲クル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ハ巴拿馬規則第十四條ノ規定ニ依リ算定シタル機關室、常設炭庫、燃料油庫及二重底燃料油庫ノ實積噸數ニ依ルカ又ハ第二十九條ニ掲クル割合ニ依リ査定シタル噸數ニ依ルカハ船舶所有者ノ申請ニ依リ之ヲ定ムヘシ

(イ) 移動隔壁ヲ有スル横置炭庫ヲ備ヘサル船舶
(ロ) 貨物若ハ倉庫品ヲ搭載スルニ適セサル燃料油庫又ハ二重底燃料油庫ヲ備フル船舶
第三 合衆國規則ニ依ル噸數

(甲) 總噸數

一 合衆國規則ニ依ル總噸數ハ我規則ニ依ルモノト相違スル點アルヲ以テ其ノ算定ニ付テハ合衆國規則及本通牒ニ注意スヘシ

二 我規則ニ依リ測度シタル上甲板下ノ噸數ハ合衆國規則ニ依リ測度シタルモノト看做ス但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

(イ) 區畫式構造ニ非サル二重底内ノ場所ニシテ貨物、倉庫品、罐水又ハ石炭其ノ他ノ燃料ノ搭載ニ供用シ又ハ供用シ得ルモノナルトキハ肋板ノ上面ト内底板トノ間ノ噸數ヲ上甲板下ノ噸數ニ算入スヘシ(合衆國船舶測度訓示第十二條(b)第五項參照)

(ロ) 二重底ヲ除クノ外貨物、倉庫品、罐水又ハ石炭其ノ他ノ燃料ノ搭載ニ適セサル構造ヲ有スル荷足水艙アルトキハ其ノ噸數ヲ上甲板下ノ噸數ヨリ除外スヘシ

巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項(第二)

三 艙口ハ其ノ長又ハ幅一メートル未滿ノモノト雖其ノ噸數ヲ總噸數ノ算定ニ加フヘシ

(乙) 總噸數ヨリ除外スヘキ場所ノ噸數

四 上甲板ノ場所ノ噸數ニシテ總噸數ヨリ除外スヘキモノニ付テハ第五號ノ場合ヲ除クノ外我規則ニ同シ

五 船體主要構造部ヨリ離レテ設ケラレタル最下層甲板以上ニ在ル客室ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ(合衆國改正法律第四一五一號及測度訓示第二十二條及第二十四條參照)

(丙) 純噸數ヲ算定スル爲總噸數ヨリ控除スヘキ噸數

六 合衆國規則ニ依ル純噸數ハ我規則ニ依ルモノト相違スル點アルヲ以テ其ノ算定ニ付テハ合衆國規則及本通牒ニ注意スヘシ

七 總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ純噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ之ヲ控除スヘカラサルコト我規則ニ同シ

八 我規則ニ依リ測度シタル船員常用室ノ噸數ハ合衆國規則ニ依リ測度シタルモノト着做ス但シ飲食料倉庫ノ噸數ハ船員專用ノモノト雖之ヲ船員常用室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘカラス

九 帆庫ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ノ制限ハ我規定ニ同シキモ水夫長倉庫ノ噸數トシテ控除スヘキ噸數ノ制限ニ付テハ少シク異ナルヲ以テ注意スヘシ

十 錨鎖庫ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

十一 機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ノ算定方ハ我規定ニ同シ但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

(イ) 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三未滿又ハ外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十未滿ナルトキハ機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ三ヲ加ヘタルモノ又ハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ控除スヘシ

此ノ場合ニ於テハ船舶所者ノ申請ニ依リ總噸數ノ百分ノ三十二又ハ總噸數ノ百分ノ三十七ノ控除ヲ爲スノ規定ナキコトニ注意スヘシ

(ロ) 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十以上ナルトキ又ハ外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ三十以上ナルトキハ原則トシテ總噸數ノ百分ノ三十二又ハ總噸數ノ百分ノ三十七ノ控除ヲ爲シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ限り機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ三ヲ加ヘタルモノ又ハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ控除スヘシ

(ハ) 機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ニ付テハ總噸數ヨリ控除スヘキ機關室以外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ニ止ムル制限ナキコトニ注意スヘシ

○蘇士運河噸數證書交付規則

大正四年九月二十五日
逕信省令第三十九號

改正 大正十年三月五日 昭和七年四月十一日(同年六月二十)
省令第八號 省令第十四號(日ヨリ施行)

- 第一條 日本船舶ノ所有者ニシテ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附録書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第二條 前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ
- 第三條 管海官廳ハ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ管海官廳ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ差出サシムルコトヲ得
- 第四條 噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附録書式ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 第二條第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第五條 噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生シタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書換ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
- 噸數證書ノ滅失ニ因リ其ノ再交付ヲ申請セムトスルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル

申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
 管海官廳ハ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ噸數證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ
 第六條 噸數證書カ不用トナリタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ
 噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ但シ前條第
 二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 第七條 噸數證書ニ記載シタル事項カ蘇士運河會社ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當
 該船舶カ歸航シタル後遲滞ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ届出ト同時ニ
 噸數證書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
 管海官廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ噸數證書ヲ査閲シタル後遲滞ナク之ヲ船舶所有者
 ニ返還スヘシ
 第八條 船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附
 錄測度手數料表ニ定ムル手數料ヲ納付スヘシ
 申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收
 ス改測ノ場合ニ付亦同シ
 第九條 噸數證書ノ交付書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手數
 料ヲ納付スヘシ
 第十條 前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

手數料納付書ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於
 テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ
 第十一條 本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ別ニ之ヲ定ム
 第十二條 本令ハ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶及外國船舶ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正四年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス
 附 則 (大正十年二月省令第八號)
 本令ハ大正十年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

測 度 手 數 料 表

測 度 種 類	船 舶 種 類		噸 數
	汽 船 及 機 關 船	有 帆 船	
新 規 測 度 又 全 部 改 測	機 關 船	有 帆 船	三噸以上
			五噸以上
			十噸以上
			十五噸以上
			二十噸以上
	汽 船 及 機 關 船	有 帆 船	三噸以上
			五噸以上
			十噸以上
			十五噸以上
			二十噸以上
改 測	機 關 船	有 帆 船	三噸以上
			五噸以上
			十噸以上
			十五噸以上
			二十噸以上
	汽 船 及 機 關 船	有 帆 船	三噸以上
			五噸以上
			十噸以上
			十五噸以上
			二十噸以上

備考	一部改測	汽船及機關有スル帆船	三圓	五圓	七圓	二千噸以上十圓
	機關ヲ有セサル帆船	二圓	三圓	五百噸以上五圓		

- 備考
- 一 測度甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手数料ヲ納付スヘシ
 - 二 第八條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手数料ヲ納付スヘシ

書式

蘇士運河噸數證書交付(書換)申請書

汽(帆)船何丸

右蘇士運河噸數證書交付規則ニ依リ 年 月

噸數證書交付書換相成度此段及申請候也

年 月 日

日某所ニ於テ測度(改測)執行ノ上

住所

所有者 何

某印

管海官廳宛

○蘇士運河噸數證書交付規則第十一條ノ規定ニ依リ同規則ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度

執行地

大正八年八月 改正(昭和二年十月)
 逓信省告示第一〇五九號 改正(逓信省告示第二二六三號)
 昭和七年七月 改正(逓信省告示第一三三九號)

管海官廳

測度執行地

- 東京 逓信局
- 東京逓信局海事部横濱出張所
- 東京逓信局海事部浦賀出張所
- 名古屋 逓信局
- 大阪 逓信局
- 大阪逓信局海事部神戸出張所
- 廣島 逓信局
- 熊本 逓信局
- 熊本逓信局海事部長崎出張所

- 東京 市
- 横濱 市
- 神奈川縣三浦郡浦賀町
- 名古屋 市
- 大阪 市
- 神戸市、兵庫縣赤穂郡相生町
- 岡山縣兒島郡日比町、廣島縣御調郡因ノ島
- 山口縣都濃郡笠戸島、同縣豊浦郡彦島
- 長崎 市

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依リ事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地

蘇士運河噸數證書交付手續

改正 大正十年三月 昭和七年四月 同年六月二十

公達第一八六號 公達第二四四號(日ヨリ施行)

大正四年九月二十七日(同年十月二十)

公達第五百十八號(五日ヨリ施行)

○蘇士運河噸數證書交付手續

第一條 蘇士運河噸數證書交付規則第三條及第四條ノ規定ニ依リ測度又ハ改測ヲ行ヒタルトキハ
 検査官吏ハ噸數證書ニ掲クル項目ニ依リ總噸數ニ算入スヘキ場所純噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ
 控除スヘキ場所及總噸數ヨリ除外スヘキ場所ノ寸法、計算方法及噸數ヲ記入シタル測度明細書
 ヲ調製スヘシ

第二條 前條ノ規定ニ依リ測度明細書ヲ調製シタルトキハ管海官廳ハ其ノ寫ヲ遞信大臣ニ提出シ
 承認ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ承認ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ噸證數書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

第四條 管海官廳ニ於テ噸證數書ヲ申請者ニ交付シタルトキハ遲滯ナク證書ノ謄本ヲ遞信省ニ送
 付スヘシ但シ蘇士運河噸數證書交付規則第五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ總噸數、新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別、測度手數料及證書ノ手
 數料ヲ記載シ又一部改測ノ場合ニシテ測度甲板下部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲ附記シ
 タル手數料收入報告書ヲ謄本ニ添付スヘシ

第五條 管海官廳ニ於テ蘇士運河噸數證書交付規則第五條ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ交付シタルト
 キハ遲滯ナク左ノ事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

○蘇士運河噸數證書交付手續

改正 大正十年三月 昭和七年四月 同年六月二十

大正四年九月二十七日(同年十月二十)

公達第一八六號 公達第二四四號(日ヨリ施行)

公達第五百十八號(五日ヨリ施行)

○蘇士運河噸數證書交付手續

第一條 蘇士運河噸數證書交付規則第三條及第四條ノ規定ニ依リ測度又ハ改測ヲ行ヒタルトキハ
 検査官吏ハ噸數證書ニ掲クル項目ニ依リ總噸數ニ算入スヘキ場所純噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ
 控除スヘキ場所及總噸數ヨリ除外スヘキ場所ノ寸法、計算方法及噸數ヲ記入シタル測度明細書
 ヲ調製スヘシ

第二條 前條ノ規定ニ依リ測度明細書ヲ調製シタルトキハ管海官廳ハ其ノ寫ヲ遞信大臣ニ提出シ
 承認ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ承認ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ噸證數書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

第四條 管海官廳ニ於テ噸證數書ヲ申請者ニ交付シタルトキハ遲滯ナク證書ノ謄本ヲ遞信省ニ送
 付スヘシ但シ蘇士運河噸數證書交付規則第五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ總噸數、新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別、測度手數料及證書ノ手
 數料ヲ記載シ又一部改測ノ場合ニシテ測度甲板下部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲ附記シ
 タル手數料收入報告書ヲ謄本ニ添付スヘシ

第五條 管海官廳ニ於テ蘇士運河噸數證書交付規則第五條ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ交付シタルト
 キハ遲滯ナク左ノ事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

蘇士運河噸數證書交付手續

- 一 船舶ノ番號及名稱
- 二 證書ノ日附
- 三 變更ニ係ル事項
- 四 證書ノ手数料
- 第六條 蘇士運河噸數證書交付規則第六條ノ規定ニ依リ噸數證書ノ返還ヲ受ケタルトキ又ハ噸數證書ノ滅失ノ届出ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ遞信省ニ報告スヘシ
- 第七條 蘇士運河噸數證書交付規則第七條ノ規定ニ依リ噸數證書ヲ査閲シタルトキハ管海官廳ハ遲滯ナク變更ニ依ル事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ
- 第八條 蘇士運河噸數證書交付規則第四條ノ規定ニ依ル改測ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ同規則第五條第二項ノ規定ニ依ル噸數證書ノ再交付ノ申請ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ノ測度明細書寫ノ送付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

○蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル

○蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル

注意事項

大正四年十月七日 大正十二年二月十二日 昭和七年五月二十六日
 管發乾第四五九號通牒 登第二一號通牒 船第七六八號通牒

第一 總 則

- 一 本通牒中我規則又ハ我規定トハ長二十メートル以上ノ船舶ノ積量ノ測度ニ關スル我法規ヲ謂ヒ萬國規則トハ千八百七十三年「コンスタンチノーブル」ニ開催セラレタル萬國噸數會議ニ於テ決議シタル船舶積量測度規則ヲ謂フ
- 二 本通牒中船ノ全長ト稱スルハ船ノ中心線ニ於テ船首樓ノ高サノ二分ノ一ノ所ニテ船首材ノ後面ヨリ船尾樓ノ高サノ二分ノ一ノ所ニテ船尾肋材ノ前面迄測リタル距離ヲ謂フ
- 三 特別ノ事由アルカ爲萬國規則第一則ニ依リ測度スルコト能ハサル船舶ニ付テハ同規則第二則ニ依リ測度スヘシ
- 三ノ二 本通牒ニ於テ噸數トハ立方メートルニテ表ハシタル積量ニ〇・三五三ヲ乘シタルモノ又ハ立方呎ニテ表ハシタル積量ヲ百ニテ除シタルモノヲ謂フ
- 第二 總 噸 數
- 四 萬國規則ニ依ル總噸數ハ我規則ニ依ル總噸數ト相違スル點アルヲ以テ其ノ算定ニ付テハ萬國規則ノ總則第一號及甲板上下ノ場所ノ測度ニ關スル蘇士運河會社ノ規定ニ注意スヘシ
- 五 我規則ニ依リ測度シタル上甲板下ノ噸數ハ萬國規則ニ依リ測度シタルモノト看做ス但シ左ニ

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項

掲クル場合ニ於テハ萬國規則ノ規定ニ依リ修正又ハ改測スヘシ

(イ) 船舶積量測度規程第五條ニヨリ副分深點ヲ設ケテ測度シタルトキ(副分深點ヲ設ケサル方法ニ依リ改測スヘシ)

(ロ) 船舶積量測度規程第十四條ニ依リ區分シテ測度シタルトキ(我舊船舶積量測度規則ノ如ク區分セサル方法ニ依リ改測スヘシ)

五ノ二 貨物、倉庫品又ハ燃料ヲ搭載スルニ適スル二重底内ノ場所アルトキハ各區劃毎ニ平均ノ長、幅及高ヲ測リテ其ノ噸數ヲ算定スヘシ

前項ノ區劃ニ付テハ運河通航ノ際現ニ貨物倉庫品又ハ燃料ヲ搭載ノ場合ニ限り運河會社ニ於テ其ノ噸數ヲ純噸數ニ加算シ通航料ヲ課スル規定ナルヲ以テ便宜上其ノ位置、用途及噸數ヲ噸數證書ノ欄外適當ノ場所ニ記入スルニ止メ其ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入シ置クコトヲ要セス

五ノ三 船樓内又ハ側室ト圓室(若ハ機關室圍壁)トノ間ニ在ル通路ニシテ上方カ甲板ヲ以テ蔽ハルルトキハ兩端全ク開放セルモノト雖其ノ幅カ該場所ニ於ケル甲板ノ幅ノ二分ノ一以上ナラサル限り其ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入スルモノナルコトニ注意スヘシ

五ノ四 上甲板以上ノ場所ニ在ル圍壁載炭口カ船樓又ハ甲板室内ニ在ルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ該船樓又ハ甲板室ノ噸數ニ包含セシメ別ニ之ヲ算定シテ噸數證書ノ總噸數ノ細目第三號「トラシク」ノ項ニ記入スルコトヲ要セス

噸數證書ノ總噸數ノ細目第三號中出入口室以下各項ニ掲クル場所ノ噸數ノ取扱ニ付テモ前項

ニ準ス

六 機關室ノ採光通風ニ要スル場所ニシテ上甲板上ニ船樓一層ノミアルトキハ該船樓内ニ在ルモノ又船樓二層以上(遮浪甲板直下ノ甲板間ノ場所ヲモ船樓ト看做シ遮浪甲板直上ノ船樓ハ上層船樓トシテ取扱フ)アルトキハ其ノ最下層船樓内ニ在ルモノノ噸數ハ之ヲ總噸數及機關室ノ噸數ニ算入スヘシ但シ第十五(ロ)及第十六號(イ)ニ依リ汽罐室口ノ前端ヨリ汽機室口ノ後端ニ至ル場所ノ噸數ヲ除外スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

七 機關室ノ採光通風ニ要スル場所ニシテ上甲板上ニ船樓二層(遮浪甲板直下ノ甲板間ノ場所ヲモ船樓ト看做シ遮浪甲板直上ノ船樓ハ上層船樓トシテ取扱フ)以上アルトキハ其ノ最下層以外ノ船樓内ニ在ルモノノ噸數ハ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ限り之ヲ總噸數及機關室ノ噸數ニ算入スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ當該船樓内ノ場所及其ノ下層ニ在リテ機關室ヲ蔽圍スル船樓内ノ場合ニ於テハ第十四號乃至第十九號ニ依ル除外ヲ爲スコトヲ得ス(附録圖解第十九圖參照)

八 前項ノ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ハ各船樓内ニ於テ一部ヲ分割シテ之ヲ採ルヘカラス又上層ノ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ヲ算入スルハ其ノ下層ノモノヲ算入シタル場合ニ限ルコトニ注意スヘシ

八 機關室ノ採光通風ニ要スル場所ニシテ遮浪甲板直下ノ甲板間ニ在ルモノノ噸數ハ之ヲ總噸數及機關室ノ噸數ニ算入スヘシ

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項

九 遮浪甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル部分ノ噸數ハ船舶所
有者ノ申請ニ依リ遮浪甲板直上ノ船樓ニ付テ第十五號及第十六號ニ依ル除外ヲ爲ス場合ニ限
リ之ヲ總噸數ニ算入スヘシ(第十七條但書參照)

十 艙口ノ噸數ノ制限ニ關スル規定ハ我規定ニ同シ
艙口ハ其ノ長又ハ幅一メートル未滿ノモノト雖其ノ噸數ヲ總噸數ノ算定ニ加フヘシ

第三 總噸數ヨリ除外スヘキ場所ノ噸數

十一 機關室ノ採光通風ニ要スル場所ニシテ上甲板以上ニ船樓二層以上(遮浪甲板直下ノ甲板間ノ
場所ヲモ船樓ト看做ス)アルトキハ其ノ最下層以外ノ船樓内ニ在ルモノノ噸數及最上層船樓
甲板以上ニ在ルモノノ噸數ハ之ヲ噸數船ヨリ除外スヘシ但シ第七號ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ
在ラス(第七號參照)

十二 機關室以外ノ室又ハ場所ノ採光通風ニ要スル場所ニシテ上甲板以上ニ在ルモノ及上甲板以
上ノ出入口室ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ除外スルコト我規定ニ同シ但シ「グラウンド、エントラン
ス」等ニ於テ階段ノ周圍ニ通路ヲ有スル出入口室ニ在リテハ階段ニ對スル噸數ノミヲ除外ス
ヘシ

十三 二・五四センチメートル(一吋)ヲ超ユル間隔ヲ有スル板ヲ以テ構成シタル屋根ヲ有スル上
甲板以上ノ場所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ

十四 上甲板上ノ場所ニシテ第十五號乃至第十九號ニ依リ總噸數ヨリ除外スヘキモノハ我規定ニ

於テ蔽圍セサル場所トシテ除外セラルヘキモノニシテ且旅客又ハ貨物ヲ搭載セサルモノニ限
ルコトニ注意スヘシ

十五 船尾樓、船橋樓又ハ船首樓カ相離レテ設ケラレ且其ノ層數一層ナル場合ニ於テハ左ニ掲ク
ル範圍ニ在ル船樓内ノ場所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ(前號參照)

(イ) 船尾樓ニ於テハ中心線ニテ測リ高ノ中央ニ於テ船尾肋材ノ前面ヨリ船ノ全長ノ十分ノ一ノ
所ニ至ル場所(附錄圖解第一圖乃至第四圖參照)但シ機關室口カ船尾樓内ニ在ル場合ヲ除ク
(第十六號及附錄圖解第十四圖參照)

(ロ) 船橋樓ニ於テハ汽罐室口ノ前端ヨリ汽機室口ノ後端ニ至ル場所但シ汽罐室口ノ前端カ汽罐
室隔壁ヲ超エテ前方ニ在ルトキ又ハ汽機室口ノ後端カ汽機室隔壁ヲ超エテ後方ニ在ルトキ
ハ該超過部内ヲ除ク(附錄圖解第五圖乃至第八圖參照)

(ハ) 船首樓ニ於テハ中心線ニテ測リ高ノ中央ニ於テ船首材ノ後面ヨリ船ノ全長ノ八分ノ一ノ所
ニ至ル場所(附錄圖解第九圖乃至第十二圖參照)

(ニ) 船尾樓船橋樓及船首樓内ニ於テ舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル場所(附錄圖解第十一
圖參照)

十六 船尾樓下船橋樓又ハ船橋樓下船首樓トカ相連續シテ設ケラレ(機關室口カ船尾樓内ニ在ル
場合ヲ含ム)且其ノ層數一層ナル場合ニ於テハ左ニ掲クル範圍ニ在ル船樓内ノ場所ノ噸數ハ
之ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ(第十四號參照)

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項

(イ) 前號(ロ)ニ掲クル場所ニ準スヘキモノ(附録圖解第十三圖及第十四圖参照)
(ロ) 舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル場所(附録圖解第十三圖及第十四圖参照)

十 船樓二層以上(遮浪甲板直下ノ甲板間ノ場所ヲモ船樓ト看做シ遮浪甲板直上ノ船樓ハ上層船樓トシテ取扱フ)アル場合ニ於テハ其ノ最下層船樓ニ付テノミ前二號ニ掲クル總テノ除外ヲ爲シ上層船樓ニ付テハ舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル場所ノミノ除外ヲ爲スヘシ但シ遮浪甲板直上ノ船樓ニ付テハ船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ前二號ニ掲クル總テノ除外ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第十八號ニ依ル除外ヲ爲スコトヲ得ス(第九號及第十四號参照)

十八 船樓甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ付テハ舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル部分ノ噸數ノミヲ總噸數ヨリ除外スヘシ(第七號但書、第十四號、第十七號但書、附録圖解第十五圖及第十六圖参照)

十九 船樓カ相離レテ設ケラレタル場合ニ於テ該船樓端ニ於テ測リタル常設開口ノ幅カ該場所ニ於ケル甲板ノ幅ノ二分ノ一以上ニシテ之ニ縁材ヲ設ケサルトキハ該口ヨリ測リ上記ノ甲板ノ幅ノ二分ノ一以内ニ在ル船樓ノ部分ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ除外スヘシ但シ該口ヨリ上記ノ甲板ノ幅ノ二分ノ一ノ所ニ至ル間ニ開放セラレタル場所ノ幅カ上記ノ甲板ノ幅ノ二分ノ一未滿ニ狹窄サレタル箇所アルトキハ船樓端ヨリ該箇所ニ至ル部分ノミヲ除外スヘシ(第十四號及附録圖解第一圖乃至第十二圖参照)

二層以上ノ船樓アル場合ニ於テハ各層毎ニ前項ノ規定ヲ適用スヘシ(第十四號附録圖解第十七圖及第十八圖参照)

二十 前號ニ拘ラス船樓カ相接近シ其ノ間隔カ兩船樓間ニ在ル甲板ノ最小幅ノ二分ノ一ニ達セサルトキハ船樓端ニ於ケル常設開口ノ大小ヲ論セス前號ノ除外ヲ爲スヘカラス(附録圖解第十四圖参照)

二十一 第十四號乃至第十九號ニ依リ總噸數ヨリ除外シタル場所ニハ各舷ニ於テ其ノ場所ノ範圍ニ關シ標示セシムヘシ(附録標示例参照)

第四 純噸數ヲ算定スル爲メ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數
二十二 總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ純噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ之ヲ控除セサルコト我規定ニ同シ

二十三 機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ五十ヲ超ユルトキハ之ヲ總噸數ノ百分ノ五十ニ止ム但シ曳船ニ専用スル船舶ニハ此ノ制限ヲ付セス

二十四 機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキ噸數ヲ除キタル控除噸數ノ總和カ總噸數ノ百分ノ五十ヲ超ユルトキハ之ヲ總噸數ノ百分ノ五ニ止ム

二十五 總噸數ヨリ控除シタル室又ハ場所ニハ室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ標示セシムヘシ

(一) 機關ヲ有セサル船舶

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測度ニ關スル注意事項

二十六 機關ヲ有セサル船舶ニ於テ純噸數算定ノ爲總噸數ヨリ控除スヘキ場所ニ付テハ萬國規則第十二條及控除噸數ニ關スル蘇士運河會社ノ規定ニ説明セラレタルモ検査官吏ハ以下各號ノ事項ニ特ニ注意スヘシ

二十七 船長、事務長、事務員及給仕人等ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ船員常用室ノ噸數トシテ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘカラス

二十八 船員常用室トシテ控除スヘキ室ニ專用スル通路ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スルコト我規定ニ同シ但シ通路ノ一部分ノミカ船員室ニ專用ナル場合ニ於テ該部分ノミヲ分割シテ其ノ噸數ヲ控除スルコトヲ得ス

二十九 船醫室ハ實際船醫ニ供用セラルル場合ニ限り其ノ噸數ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

三十 運轉士、機關士又ハ下士ニ專用スル會食堂、運轉士、機關士及水火夫ニ專用スル賄室、浴室及便所ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

三十一 食器室、飲食料食庫、病室及藥局ノ噸數ハ船員專用ノモノト雖之ヲ總噸數ヨリ控除スヘカラス

三十二 操舵室、海圖室、見張室、信號室、探海燈格納室、無線電信機室、其ノ從事員室、航海用機具ニ專用スル副汽罐室並操舵機室、繫船機具、揚錨機具、海圖及信號器等航海用機具ニ供用セラルル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

三十三 上甲板上ニ在ル海圖室ハ船長室ニ併用スルモノト雖之ヲ總噸數ヨリ控除スヘシ

三十四 帆庫、水夫長倉庫及荷足水艙ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘカラス

(二) 機關ヲ有スル船舶

三十五 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ機關ヲ有セサル船舶ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所(一)參照)ノ噸數ノ外機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘキモノ左ノ如シ

(イ) 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ實積噸數ニ其ノ四分ノ三ヲ加ヘタルモノ
(ロ) 外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ實積噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ

三十六 前號ノ規定ニ拘ラス船舶所有者ヨリ申請アリタルトキハ機關室ノ實積噸數ニ石炭庫ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ假設石炭庫又ハ石炭口又ハ機關室ノ出入口ヲ通スルニ非サレハ直接石炭ヲ機關室ニ運搬スヘキ設備ヲ有セサル石炭庫ヲ石炭庫ノ噸數トシテ算入スヘカラス

三十七 旅客ヲ搭載スル汽船ニ於テ唯一ノ賄室アル場合ニ於テハ該賄室及料理人室ノ噸數ハ之ヲ總噸數ヨリ控除スヘカラス

附 錄

其ノ一 圖 解

一 本圖解ハ上甲板上ノ場所ニシテ總噸數ニ算入スヘキモノト總噸數ヨリ除外スヘキモノトノ區別ヲ示ス

二 我規則ニ依リ總噸數ヨリ除外スヘキ場所ニシテ萬國規則ニ依リ總噸數ニ算入スヘキモノニハ

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル測定ニ關スル注意事項

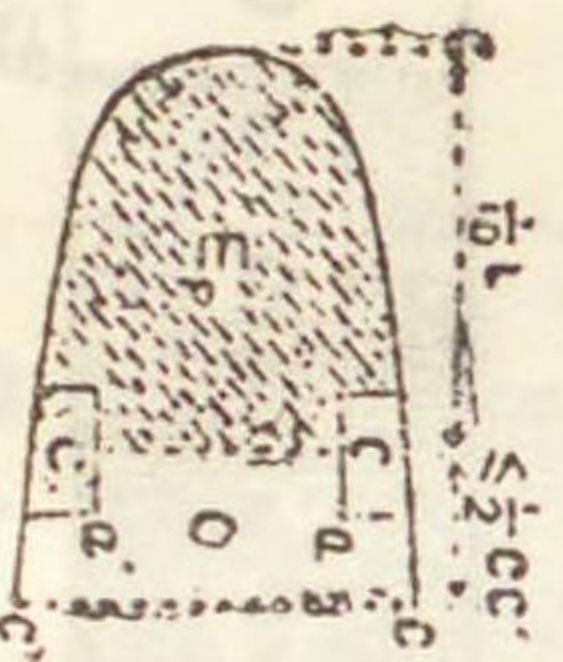
- 斜線ヲ畫シ記號Mヲ付ス
- 三 我規則ニ依リ總噸數ニ算入スヘキ場所ニシテ同時ニ萬國規則ニ依リ總噸數ニ算入スヘキモノニハ交叉斜線ヲ畫シ記號Cヲ付ス
- 四 第十九號ニ依リ總噸數ヨリ除外スヘキ場所ハ白地トシ記號Oヲ附ス
- 五 第十五號乃至第十八號ニ依リ總噸數ヨリ除外スヘキ場所ニハ點斜線ヲ畫シ左ノ記號ヲ附ス
 - E_p 船尾樓内ノ場所
 - E_f 船首樓内ノ場所
 - E_m 機關室ノ採光通風ニ要スル場所
 - E_i 機關室ノ採光通風ニ要スル場所ノ兩側ノ場所
 - E_o 舷側相對ノ位置ニ在ル開口ニ面スル場所

附 錄

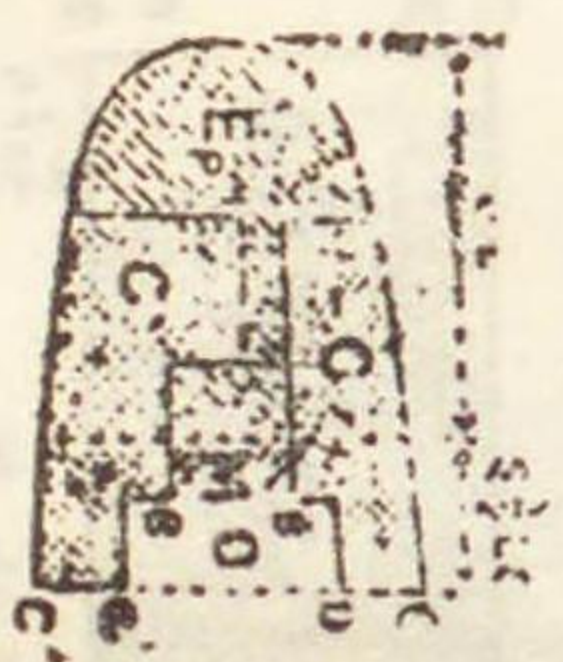
其ノ一 圖 解

第一 船尾樓船橋樓又ハ船首樓カ相離レテ設ケラレ且其ノ層數一層ノ場合

第一圖 (1) 船尾樓 第二圖

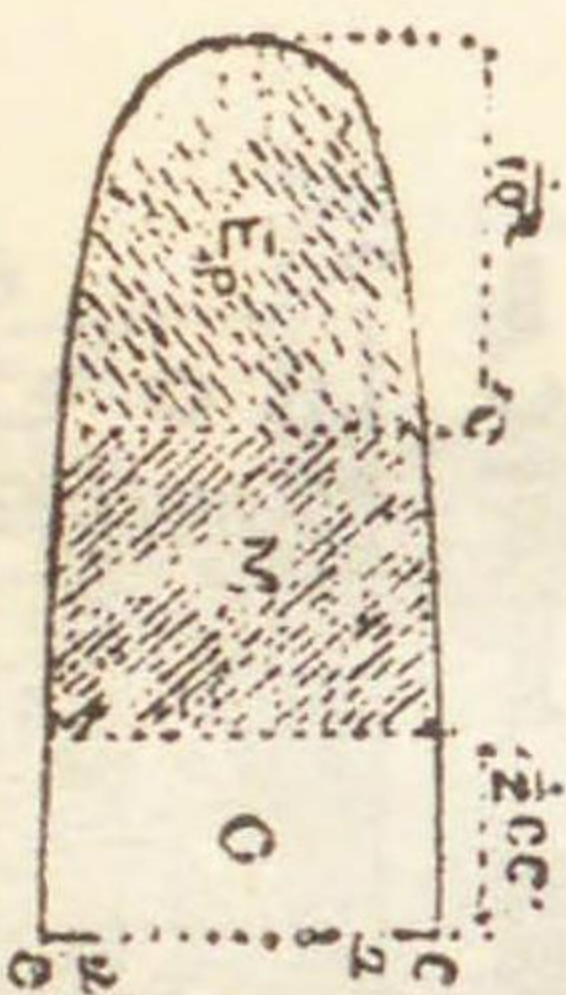


$aa' > bb', aa'$ 常設開口



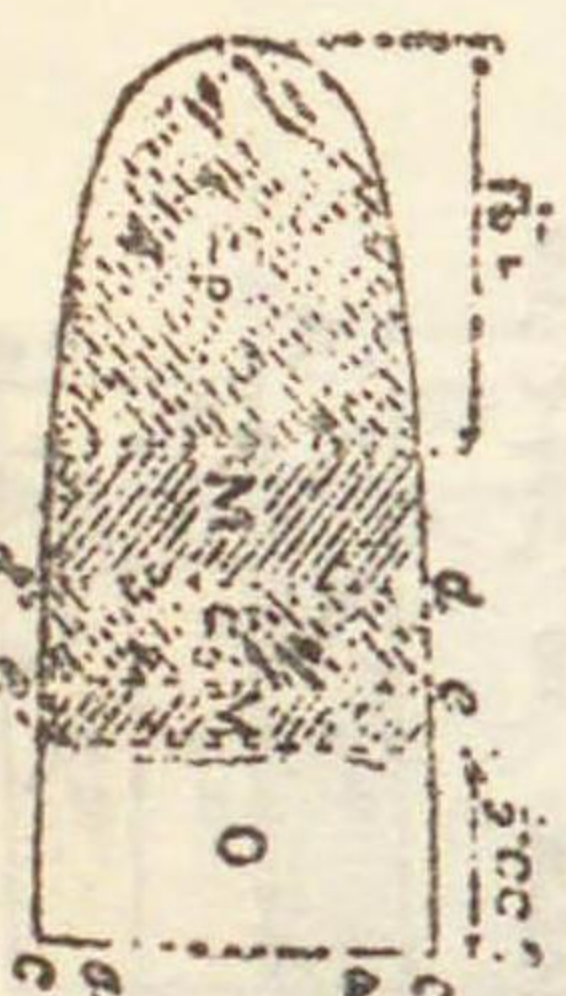
$aa' > bb', aa'$ 常設開口

第三圖



$aa' > bb', aa'$ 常設開口

第四圖

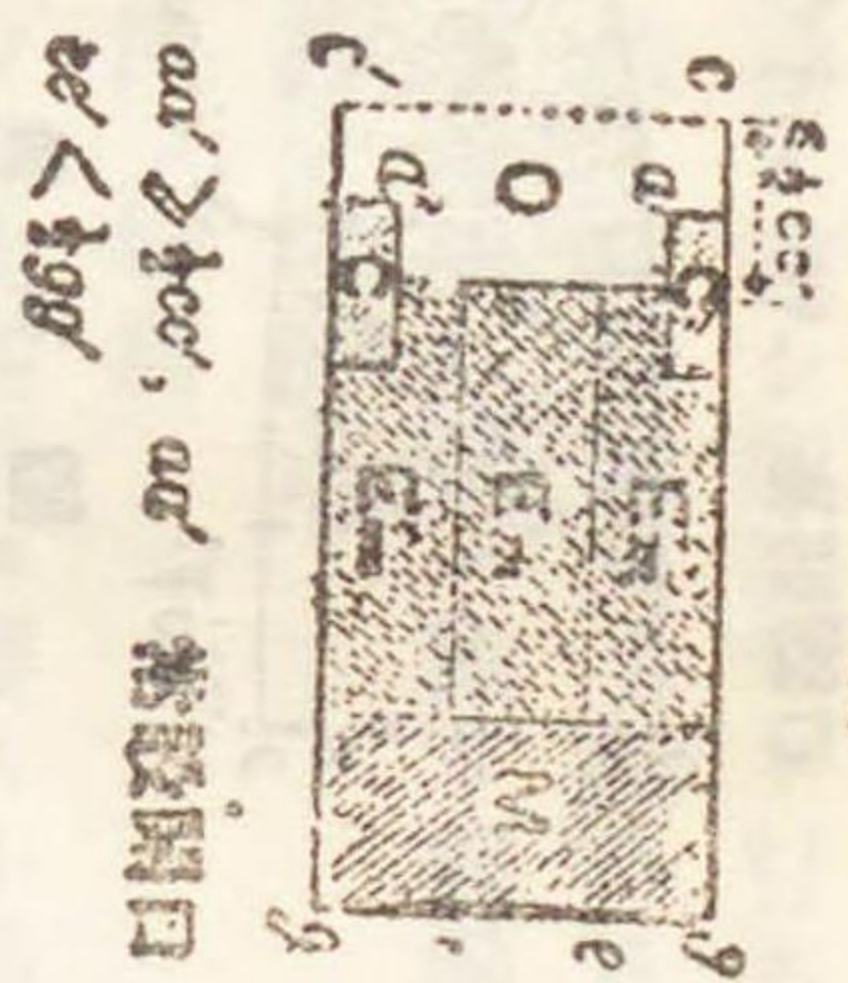


$aa' > bb', aa'$ 常設開口
 de 舷側相對ノ位置ニ在ル開口

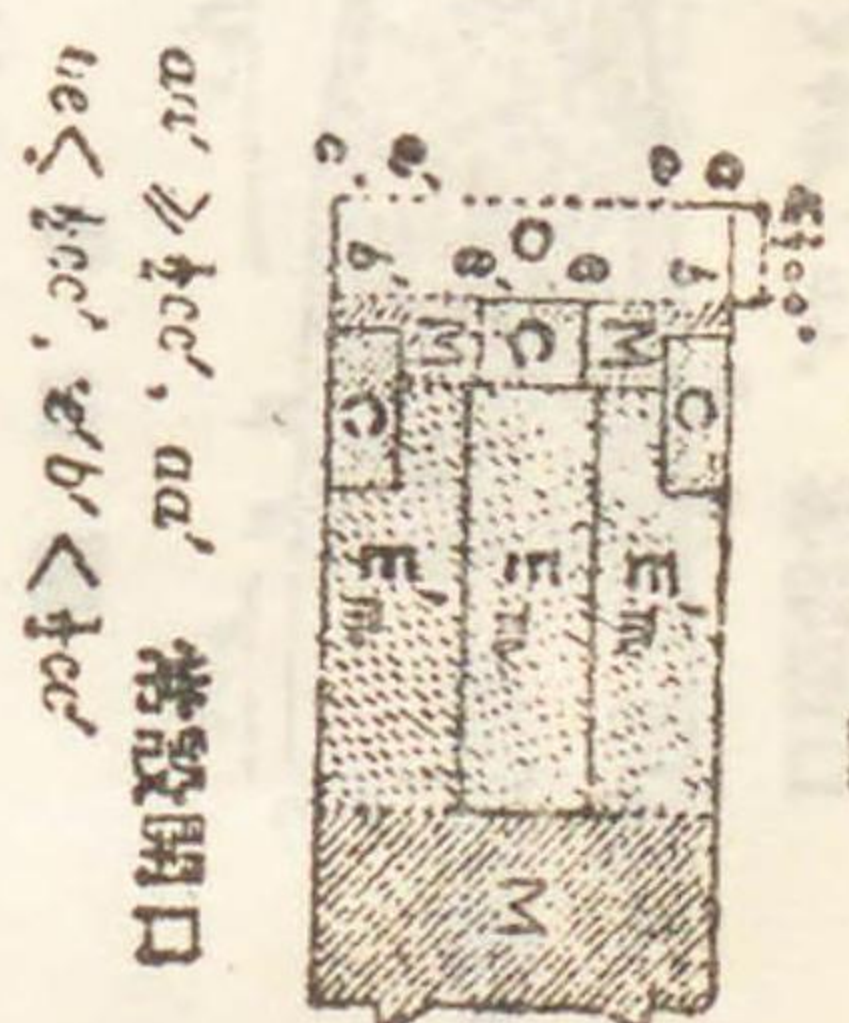
蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル注意事項

(口) 船橋樓

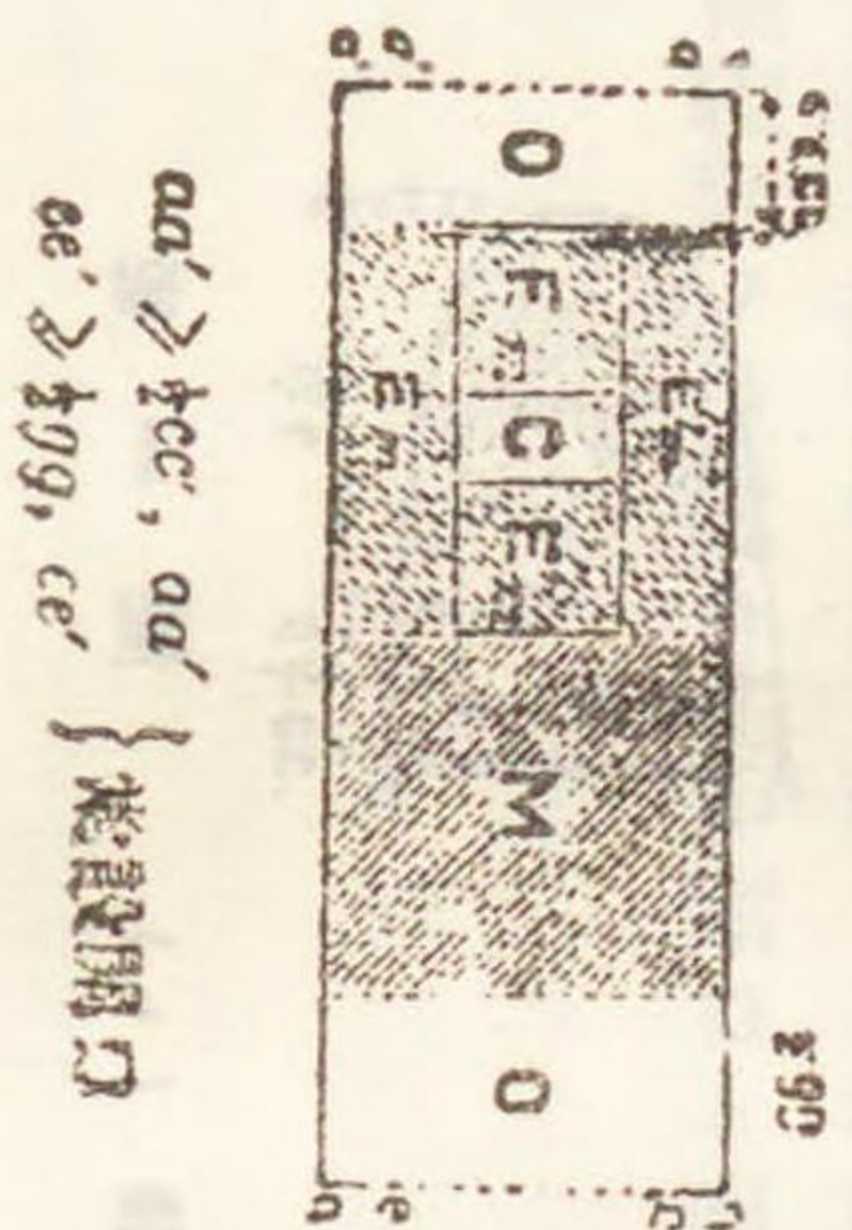
第五圖



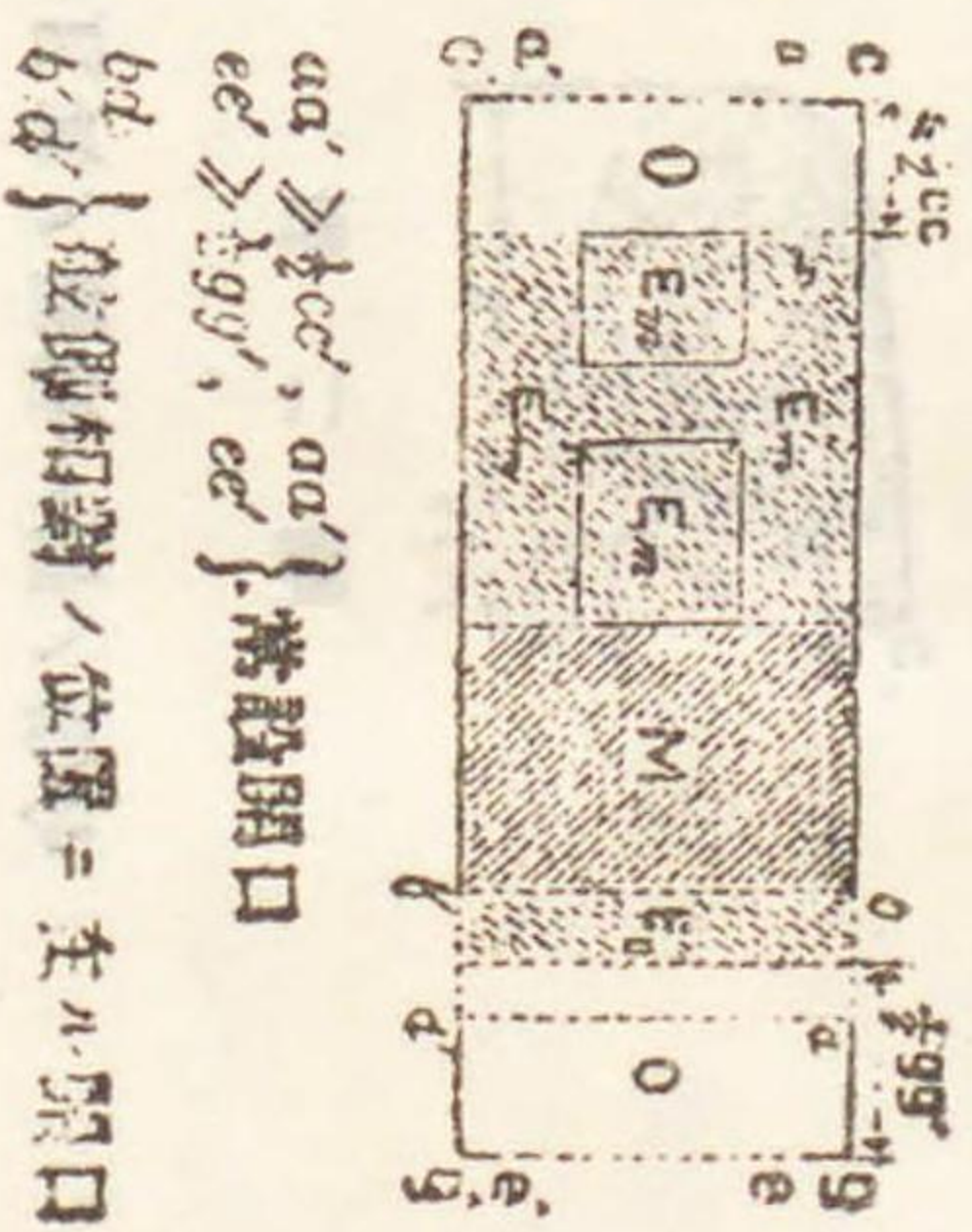
第六圖



第七圖

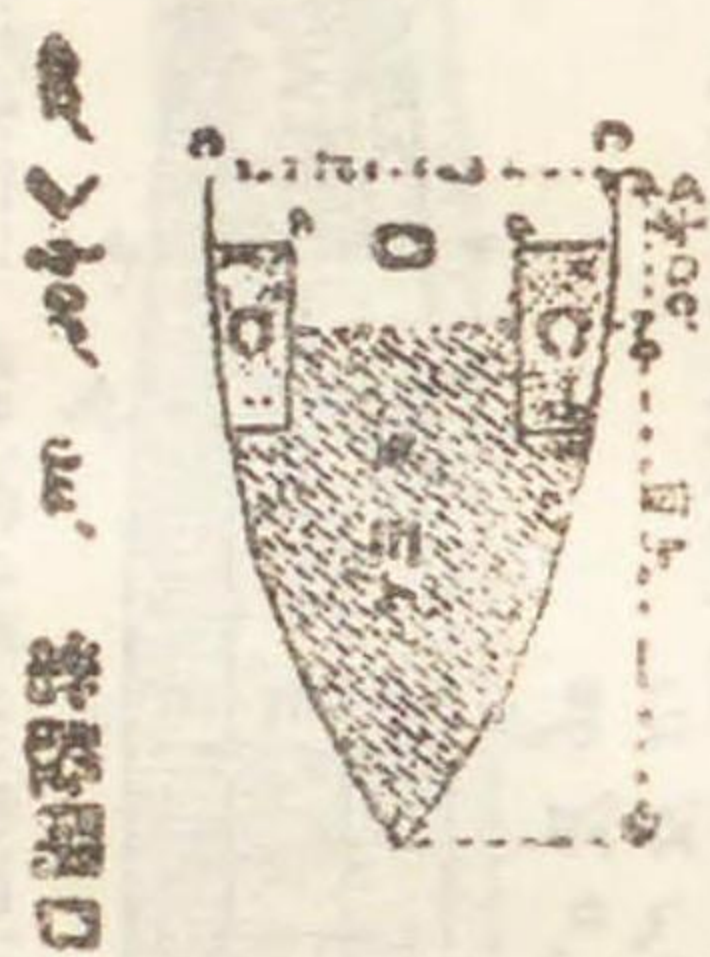


第八圖



(入) 船首樓

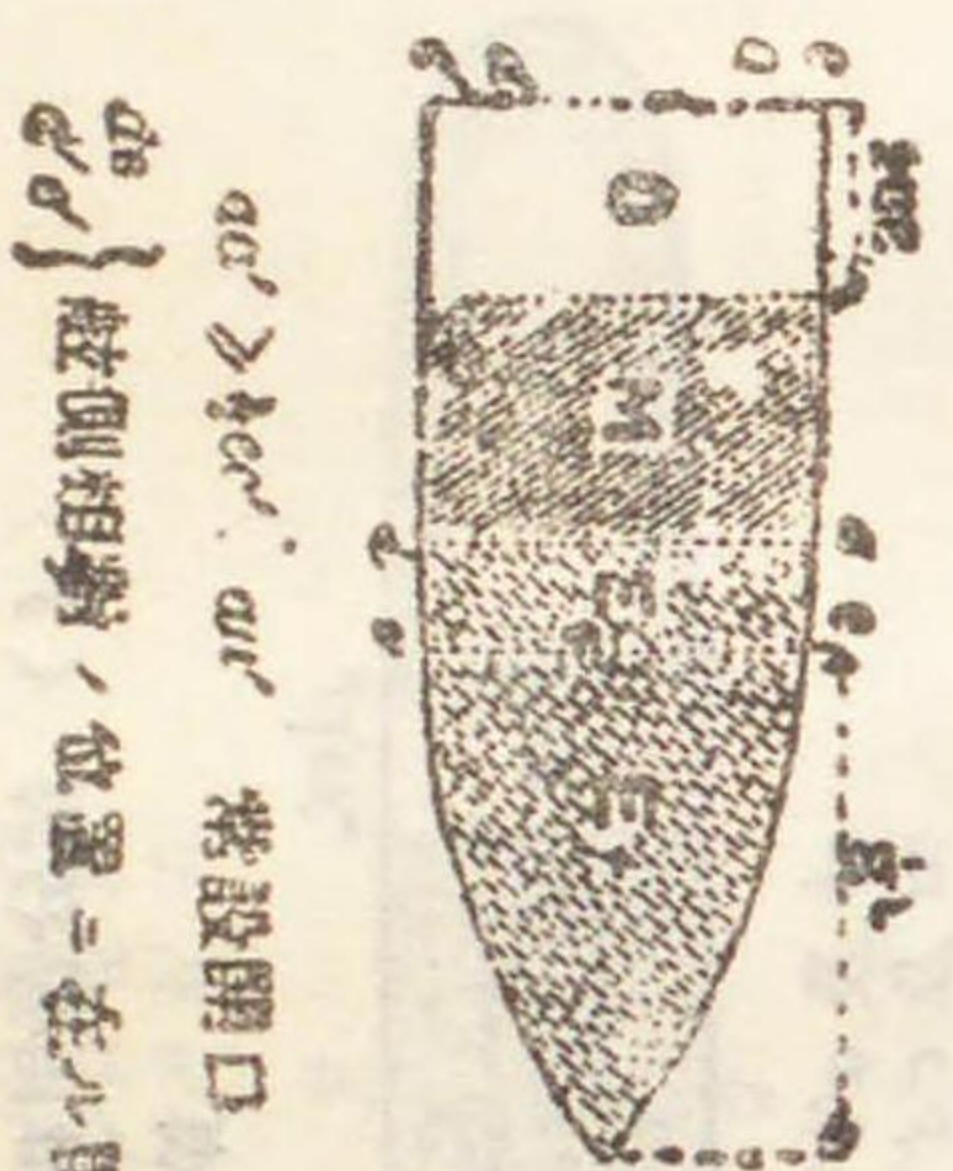
第九圖



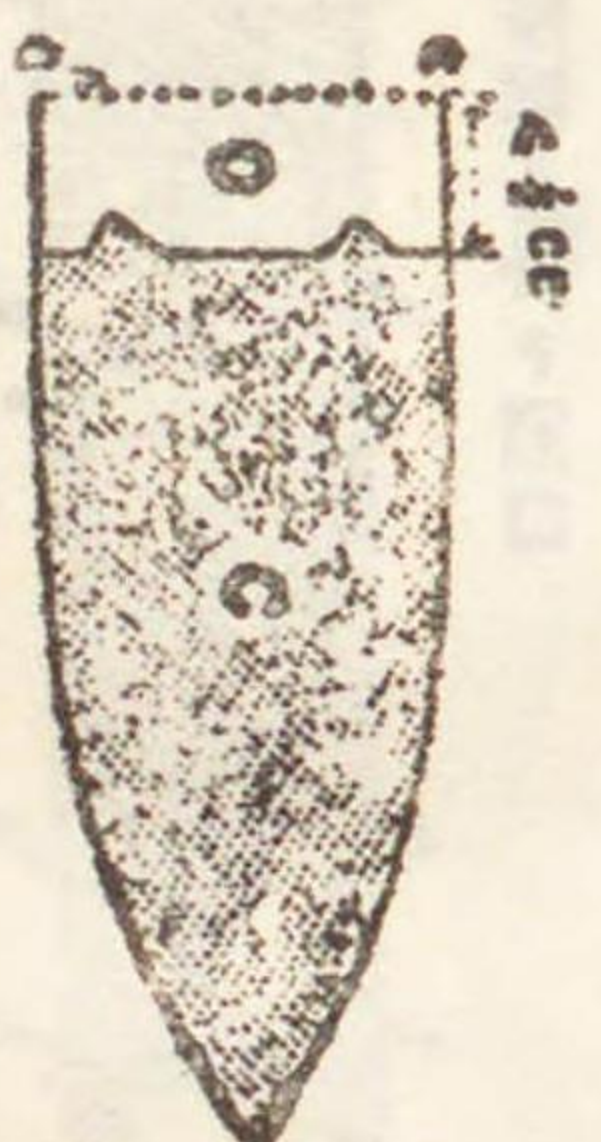
第十圖



第十一圖



第十二圖

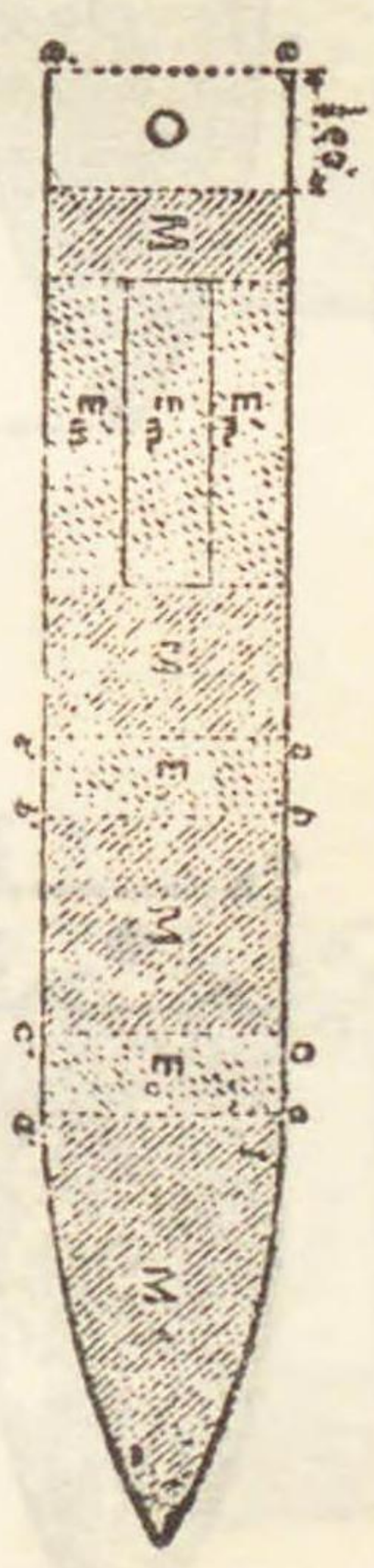


蘇士運河噸數證書交付規則 = 依ル注意事項

第二 船尾樓ト船橋樓又ハ船橋樓ト船首樓相連續シテ設ケラレ
且其ノ層數一層ノ場合

(1) 部分覆甲板(長船尾樓ノ場合ニモ適用シ得)

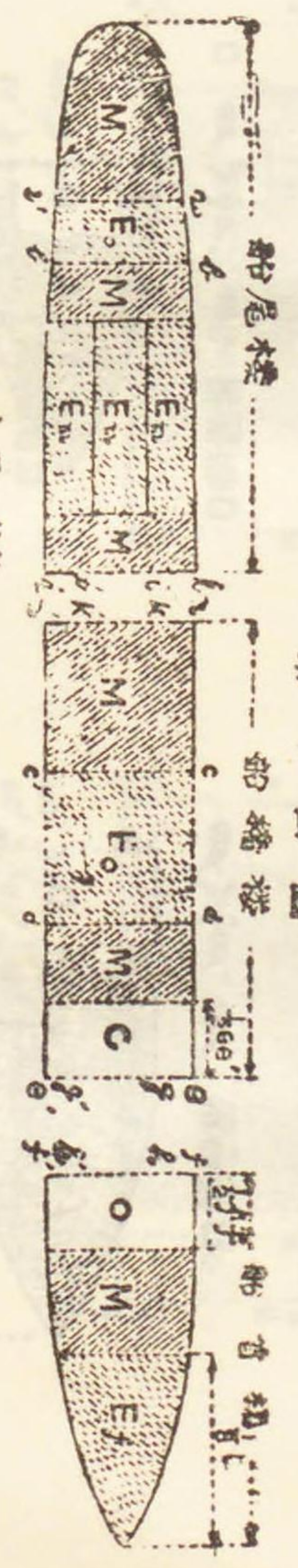
第十三圖



ab 及 a'b' } 舷側相對ノ位置 = 在ル開口
cd 及 c'd' }

(ロ) 機關室口ヲ蔽圖スル船尾樓

第十四圖

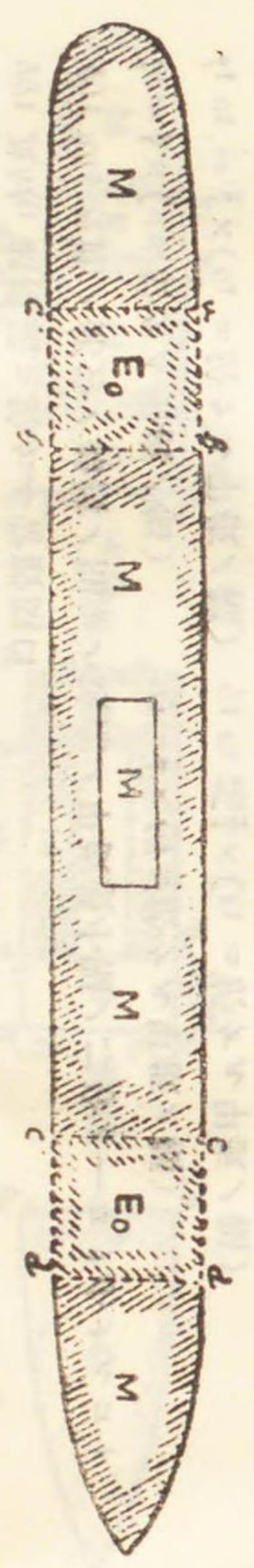


ab 及 a'b' } 舷側相對ノ位置 = 在ル開口
cd 及 c'd' }

gf > hie, hr > hif
ka 及 ka' < h' x (h' n' n' 部ノ甲板ノ最小幅) h' n' n' 部ノ甲板ノ最小幅
ef, e'f' > h' x (ef'e'f' 部ノ甲板ノ最小幅)
ie, ie' < h' x (ie'ie' 部ノ甲板ノ最小幅)

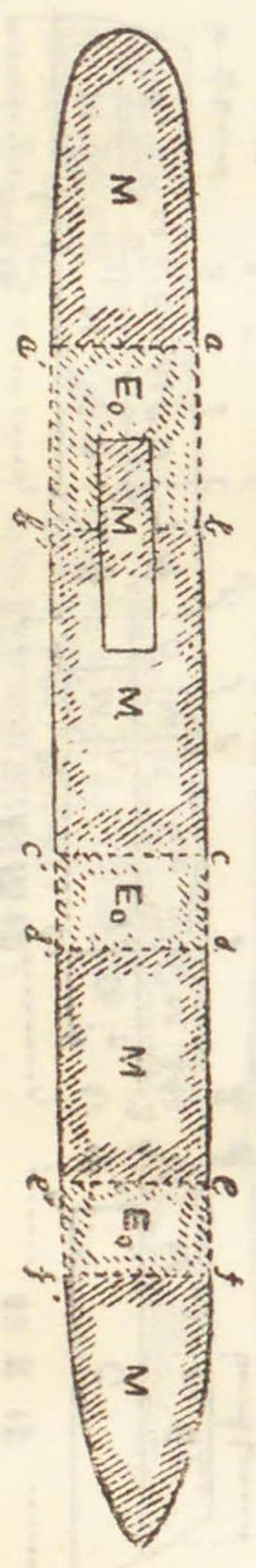
第三 遮浪板直下ノ甲板間ノ場所

第十五圖



ab 及 a'b' } 舷側相對ノ位置 = 在ル開口
cd 及 c'd' }

第十六圖



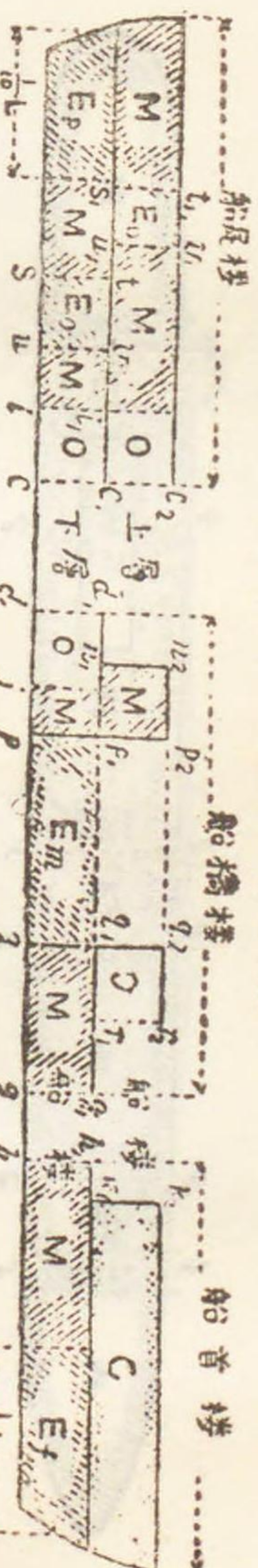
ab 及 a'b' } 舷側相對ノ位置 = 在ル開口
cd 及 c'd' }

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル注意事項

第四 船樓二層以上アル場合

第十七圖 船樓縱截面圖

(第十八圖船樓平面圖參照)



cc及dd₁ } 此等ノ所ニ於テ測リタル船樓端常設開口ノ幅ハ該部ノ甲板ノ幅ノ
 c₁c₂及r₁r₂ } 二分ノ一以上ナルコト

cc₁dd₁及l₁l₂kl₂ } 此ノ部分ニ於ケル船樓ノ間隔ノ長ハ該部ノ甲板最小幅ノ二
 分ノ一以上ナルコト

qq₁及hh₁ } 船樓端ニ於ケル常設開口

qq₁hh₁ } 及此ノ部分ノ船樓ノ間隔ハ該部ノ甲板最小幅ノ二分ノ一ヨリ小ナルコト

le = 1/2 × (c = 於ケル甲板ノ幅) } dj = 1/2 × (d = 於ケル甲板ノ幅)

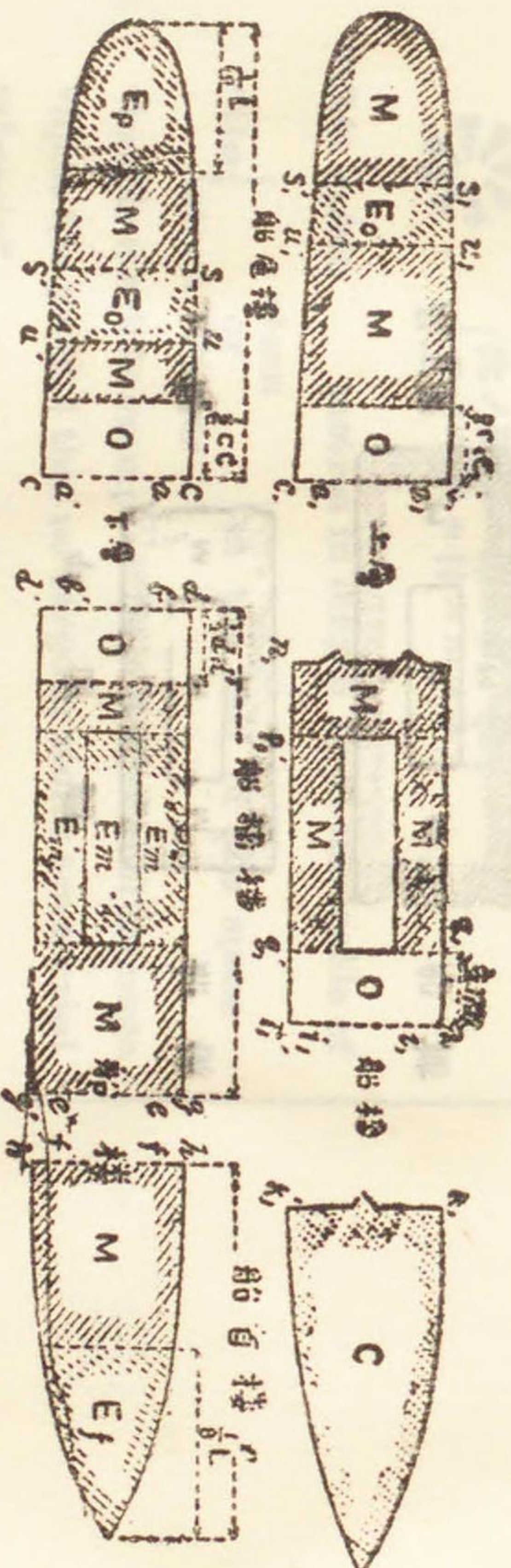
h₁c₁ = 1/2 × (c₁ = 於ケル甲板ノ幅) } q₁r₁ ≤ 1/2 × (r₁ = 於ケル甲板ノ幅)

slaw } 舷側相對ノ位置ニ在ル閉口

p₁p₂q₁q₂ } 此ノ部分ノ機關室ノ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ハ總噸數ニ算入セス

第十八圖

船樓平面圖 (第十七圖 船樓縱截面圖參照)



aa' ≥ 1/2 cc' } 常設開口
 a₁a₁' ≥ 1/2 c₁c₁' }
 ad及d'd' ≥ 1/2 × (c d c' d' = 於ケル甲板ノ最小幅)

a₁a₁'及e₁e₁' ≥ 1/2 × (c₁d₁c₁'d₁' = 於ケル甲板ノ最小幅)

r₁kl₁及r₁'kl₁' ≥ 1/2 × (r₁kl₁r₁'kl₁' = 於ケル甲板ノ最小幅)

ee'及ff' } 常設開口

gh及gh' < 1/2 × (gh'gh' = 於ケル甲板ノ最小幅)

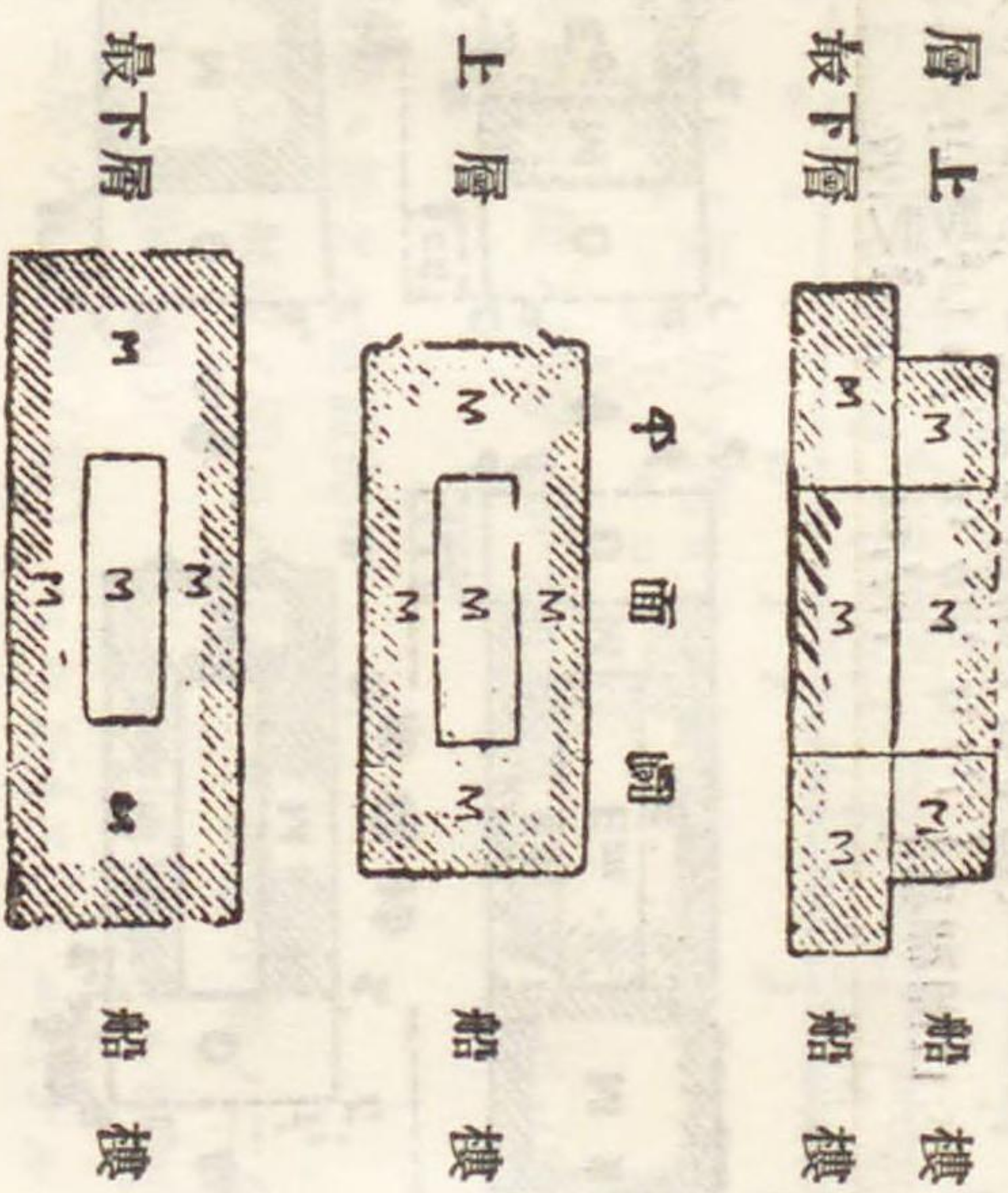
su } 及su' } 舷側相對ノ位置ニ在ル閉口

p₁q₁p₁'q₁' } 此ノ部分機關室ノ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ハ總噸數ニ算入セス

蘇士運河噸數證書交付規則ニ依ル注意事項

第十九圖 所有者ノ申請ニ依リ機關室ノ採光通風ニ要スル場所ノ噸數ハ總噸數及機關室ノ噸數ニ算入セス

機關室而圖



注意 此ノ場合ニ於テハ船樓端ニ於ケル常設開口ノ幅ノ如何ニ拘ラス當該船樓内及其ノ下層ノ船樓内ノ場所ノ噸數ハ全部總噸數ニ算入スルコト

其ノ二

第二十一號ニ依ル標示例



(此ノ記號ハ標示板ノ長サノ中央ニ付スルコト)

"This space metres in length from the inside of stern or stern timber } at the half of the space

"to this mark is exempted from Suez Canal tonnage

"upon the ground that no cargo or stores are carried

"herein"

凡在本國境內，所有之土地，其所有權人，應納地價稅。
 其地價稅之徵收，依本法之規定。
 本法所稱之土地，指在中華民國境內，所有之土地而言。
 本法所稱之所有權人，指在中華民國境內，所有土地之權利人而言。
 本法所稱之地價，指土地之價值而言。

第十七號國稅法
 中華民國二十一年一月一日公布
 中華民國二十一年一月一日施行

登錄稅法(抄錄)

凡在本國境內，所有之土地，其所有權人，應納地價稅。
 其地價稅之徵收，依本法之規定。
 本法所稱之土地，指在中華民國境內，所有之土地而言。
 本法所稱之所有權人，指在中華民國境內，所有土地之權利人而言。
 本法所稱之地價，指土地之價值而言。

登録税法

○ 登録税法

(抄録)

明治二十九年三月二十八日
法律第二十七號、總大臣副署

改正
明治三十二年三月(同年四月一)
法律第八三號(日ヨリ施行)
大正三年三月(同年十月勅令第二四號ヲ以)
法律第二一號(同年十一月十五日ヨリ施行)
昭和二年三月(同年四月一)
法律第六號(日ヨリ施行)

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

- 一 相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
- 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三十五
- 三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十三
- 四 委付 船舶價格 千分ノ三
- 五 所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ三
- 六 賃借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一
- 七 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ五・五
- 八 信託ノ登記

登録税法

- 八 所有權ニ付テハ 船舶價格 千分ノ三
 - 九 競賣ノ申立 船舶價格 千分ノ一
 - 十 假差押、假處分 債權金額 千分ノ五・五
 - 十一 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五
 - 十二 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
 - 十三 登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿 船舶每一箇 金一圓
 - 十四 抹消シタル登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記 船舶每一箇 金四十錢
 - 十五 假登記 船舶每一箇 金四十錢
 - 十六 附記登記 船舶每一箇 金二十錢
 - 十七 登記ノ更正、變更又ハ抹消 船舶每一箇 金二十錢
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
- 第三條ノ二 信託財産タル不動産又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 委託者カ元本ノ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託 不動産價格 千分ノ四
 - 二 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産ノ處分ヲ目的トスルモノ 船舶價格 千分ノ三
 - 三 委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ收益ノ受益者ナル信託 不動産價格 千分ノ四十五
 - 但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五 船舶價格 千分ノ三十五
 - 但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五 船舶價格 千分ノ三十五
- 前項第一號ノ信託ニ付信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前項第二號又ハ第三號ノ信託ニ該當スル

ニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前項第二號又ハ第三號ノ規定ヲ適用ス

第三條ノ三 前條第一項各號ニ該當セサル信託（委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産ノ管理ヲ目的トスルモノ及委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託）ニ因リ不動産又ハ船舶ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス但信託ノ登記事項ヲ變更シタル爲前條第一項各號ノ信託ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ變更ノ登記ヲ以テ受託者ノ所有權取得ノ登記ト看做シ前條ノ規定ニ依リ登録稅ヲ納ムヘシ

第三條ノ四 委託者カ收益ノ受益者ニシテ委託者以外ノ者又ハ委託者ト委託者以外ノ者トカ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナル信託ニシテ信託財産タル不動産又ハ船舶ノ管理ヲ目的トスルモノニ付其ノ元本ヲ受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ

不動産

不動産價格

千分ノ四十五

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ元本ノ受益者又ハ歸屬權利者ナルトキハ千分ノ二十五

船舶

船舶價格

千分ノ三十五

受託者ヨリ受益者又ハ歸屬權利者ニ不動産又ハ船舶ヲ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付

テハ前項ニ該當スル場合ノ外登録稅ヲ課セス

第四條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録 每十噸 金五十錢

二 轉籍 每十噸 金十錢

三 除籍 每十噸 金五錢

四 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第十六條 法人ノ合併ニ因ル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少ナキトキハ其ノ稅額ニ依ル

不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ三

第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スル

コトヲ得

第十九條 左ニ掲クルモノハ登録稅ヲ課セス

一、政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録

二、三 省略

- 四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
- 五 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

(以外各號省略)

第十九條ノ二 信託ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録稅ヲ課セス

- 一 委託者カ信託利益ノ全部ヲ受クヘキ信託ニ因リ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録
 - 二 受益者又ハ歸屬權利者ノ權利取得ノ登記又ハ登録但シ不動産又ハ船舶ノ所有權取得ニ付テハ第三條ノ四ニ依ル
 - 三 信託ノ信託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ權利取得ノ登記又ハ登録
- 前項第一號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者(歸屬權利者ヲ含ム)變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノトキニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登録稅ヲ課ス
- 第十九條ノ三 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録稅ヲ課セス

附 則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料ニシテ本法ニ規定スル登録稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和二年三月法律第六號)

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録稅ヲ課セラレタル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
 第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
 第五條ノ四 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ

○登録税法施行規則 (抄録)

改正 明治三十八年三月(同年四月十四日) 勅令第七七號(日ヨリ施行)

明治三十二年五月十九日 勅令第二百五號大、大臣副署

第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
 第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
 第五條ノ四 管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登録税ヲ徵收スヘシ

第五條 船舶登記簿に附屬する帳簿及び書類は、船舶登記官の監督する所とし、其の管理は、船舶登記官の責任に属す。
第六條 船舶登記官は、船舶登記簿に附屬する帳簿及び書類を、船舶登記官の監督する所とし、其の管理は、船舶登記官の責任に属す。

○船舶登記規則

明治三十二年六月十五日(明治三十二年六月十六日ヨリ施行)

○船舶登記規則

明治三十二年六月十五日(明治三十二年六月十六日ヨリ施行)

改正 勅令第三十八年三月九日(同年四月十四日ヨリ施行)
大正九年九月三號
勅令第三二年九月三號
大正三年九月三號

改正 大正八年六月九日
勅令第二八年六月九日
大正十一年十二月九日
勅令第五二〇號
大正十四年十二月九日
勅令第三二八號

改正 昭和七年六月九日
勅令第八年七月九日
昭和八年五月九日
勅令第一四二號

第一章 總則

第二章 登記所

第三章 登記簿

第四章 登記手續

第一節 通則

第二節 所有權ニ關スル登記手續

第三節 抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續

附則

船舶登記規則

第一章 總則

第一條 不動産登記法第二條乃至第七條、第八條ノ二、第九條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條、第

百一條、第一百二條、第一百四條ノ二乃至第四百四條ノ十五、第百八條、第百十七條、第百十九條、第百二十條、第百二十二條乃至第百二十七條ノ二、第百四十一條、第百四十二條、第百四十三條ノ二乃至第百四十八條、第百四十九條ノ二乃至第百四十九條ノ五及ヒ第百五十條乃至第百五十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二章 登記所

第二條 此規則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶港ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

船舶港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ司法大臣管轄登記所ヲ指定ス

第三條 登記所ハ船舶所有權移轉ノ登記又ハ第三十條ノ規定ニ依ル抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其旨ヲ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スルコトヲ要ス

第三章 登記簿

第四條 登記簿ハ船舶港毎ニ別冊ト爲ス

第五條 登記簿ハ一艘ノ船舶ニ付キ一用紙ヲ備フ

第六條 登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分子尚ホ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各船舶ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
表示欄ニハ第十六條ノ規定ニ依リテ船舶ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番

號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ抵當權及ヒ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第四章 登記手續

第一節 通則

第七條 登記ヲ申請スルニハ始メテ船舶所有權ノ登記ヲ申請スル場合及ヒ第十一條第一項ノ場合ヲ除ク外申請書ニ登記證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 船舶ノ種類、名稱、船質及積量

二 船舶港

三 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第九條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ申請書受付ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船舶港ニ碇泊スル場合ニ限り所有權ノ登記名義人ハ

其登記ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ區裁判所ハ裁判ヲ爲ス前船長ヲ訊問スルコトヲ要ス

第十一條 所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セスシテ登記ヲ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二條 登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シ其末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ順位番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十三條 特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ申請者以外ノ當事者ニ對シ之ニ本登記簿證ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ第四十五條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル登記アルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス
不動産登記法第七十五條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二節 所有權ニ關スル登記手續

第十四條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ニ依リ自己カ所有者タルコトヲ證スル者ヨリ其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

不動産登記法第七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ管海官廳ヨリ交付シタル船舶件名書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

日本又ハ支那ニ於テ製造シタル船舶ニ付キ始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其船舶ノ製造地ヲ管轄スル登記所ノ特別登記簿ノ謄本又ハ特別登記簿ニ其船舶ニ關スル登記ナキコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十六條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ表示欄ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ種類及ヒ名稱
 - 二 船質
 - 三 國籍取得ノ年月日但日本ニ於テ船舶ヲ製造シタル場合ハ此限ニ在ラス
 - 四 總噸數
 - 五 純噸數
 - 六 進水ノ年月
- 汽船ニ在リテハ前項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 機關ノ種類及數
二 推進機ノ種類及ヒ數

帆船ニ在リテハ第一項ニ掲ケタル事項ノ外帆裝ヲ記載スルコトヲ要ス

第十七條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記官吏カ其登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ヲ作り之ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱、船質並ニ積量、船籍港及ヒ第九條ニ掲ケタル事項ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第十八條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記權利者カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十九條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ商事會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主タル事務所ノ所在地及ヒ船舶法第一條ニ掲ケタル社員、無限責任社員、取締役、業務擔當社員若クハ代表者ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證及ヒ此等ノ者カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル商事會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主タル事務所ノ所在地及ヒ大正十四年法律第五十二號ニ掲ケタル社員、無限責任社員、取締役若クハ代表者ノ全員ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證及ヒ此等ノ者ノ二分ノ一以上カ日本人ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面並ニ其法人カ日本船舶ヲ所有スルニ適スルトコノ領事官ノ認定書又ハ其謄本ヲ添附スル

コトヲ要ス

同一ノ登記所ニ於テ既ニ商法第五十一條乃至第五十三條、第七條、第四百十一條、第二百四十二條、舊商法第三百三十八條又ハ民法第四十六條ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ前各項ニ定メタル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附スル事ヲ要セス

第二十條 始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ船舶カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ申請書ニ各共有者ノ持分及ヒ船舶管理人ノ氏名、住所ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶所有者カ其所有權ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 第十六條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶所有者カ船籍港ヲ變更シタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同一ノ船舶ノ登記用紙ニ抵當權又ハ賃借權ノ登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十二條 前條第一項ノ場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條 第十六條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ變更後ノ事項ヲ記載シ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ前ノ表示及其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第二十四條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ於ケル船籍港變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ新船籍港ノ

登記簿ニ舊船籍港ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ舊船籍港ノ表示ヲ爲シ前登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ何船籍港ノ登記簿ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十五條 船舶所有者カ船籍港ヲ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移シタルトキハ舊

船籍港ノ登記簿及ヒ其附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ甲登記所ニ申請シ其謄本ヲ乙登記所ニ提出シテ登記ヲ申請スルコトヲ要ス船籍港ヲ臺灣ニ移シ又ハ船籍港ヲ臺灣ヨリ移シタルトキ亦同シ

前條第二項、第三項及ヒ不動産登記法第九條第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 船舶管理人ノ更迭ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動産登記法第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 船舶管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動産登記法第四十三條及ヒ第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條 所有權ノ移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其移轉ノ結果ニ因リ共有カ消滅スヘキト

キハ船舶管理人ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十九條 未登記ノ船舶所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ

權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動産登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ハ申請書ニ事由ヲ記載シテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

一 船舶カ滅失又ハ沈没シタルトキ

二 船舶カ解撤セラレタルトキ

三 船舶ノ在否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ

四 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

五 船舶カ船舶法第二十條ニ掲クル船舶トナリタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ其事實ヲ證スル官吏又ハ公吏ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三節 抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續

第三十一條 登記官吏カ抵當權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動産登記法第一百七條ニ

掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十二條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ製造地ヲ管轄スル登記所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申

請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 船舶ノ種類及船質

- 二 龍骨ノ長サ若シ船舶カ龍骨ヲ備ヘサルモノナルトキハ航ノ長サ
- 三 計畫ノ幅及深サ
- 四 計畫ノ積量
- 五 製造地
- 六 造船者ノ氏名、住所若シ造船者カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所
- 七 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項
- 第三十四條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
- 第三十五條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第三十六條 特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ、表示欄ニ第三十三條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ且甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第三十七條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ所有權ノ登記ヲ爲シタル後其登記用紙ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス
- 抵當權ノ登記ヲ移ストキハ其登記ノ末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

- 抵當權ノ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス
- 第三十八條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬セサルトキハ申請書ニ特別登記簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス製造中ニ臺灣ニ於テ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ストキ亦同シ
- 前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ特別登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス
- 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 前登記所カ特別登記簿ノ謄本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス
- 第三十九條 船長カ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ハ日本又ハ支那ニ於テハ其契約ヲ爲シタル港ヲ管轄スル登記所、外國ニ於テハ最近ノ日本領事館ヲ以テ管轄登記所トス
- 第四十條 船長カ前條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶ヲ抵當ト爲シタル事由ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第四十一條 第三十九條ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第四十二條 特別登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱並ニ積量及ヒ船籍港ヲ記載シ且甲區事項欄ニ船舶所有者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條 第三十九條ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還付スルコトヲ要ス

第四十四條 第三十九條ニ定メタル登記所ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス船籍港ヲ管轄スル登記所カ臺灣ニ在ルトキ亦同シ

第四十五條 特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス臺灣ニ於ケル登記所ヨリ特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタルトキ亦同シ

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ登記ヲ爲スマテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 登記官吏カ賃借權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動産登記法第二百二十七條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十七條 既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ賃借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
不動産登記法第三百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

第四十八條 此規則ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條 不動産登記法第六十二條ノ規定ハ明治十年第二十八號布告ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ之ヲ準用ス

第五十條 不動産登記法第六十三條ノ規定ハ此規則施行前ニ登記シタル船舶ニ付キ此規則施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス但登記用紙中表示欄ニ移スヘキ船舶ノ表示ハ第十六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ非シテ此規則施行前ニ登記セザリシ船舶ニ付テハ船舶法第四條ノ規定ニ依リテ其積量ノ測定ヲ受クルマテハ舊法ノ規定ニ依リテノミ登記ヲ爲スコトヲ得但賃借權ノ登記ニ付テハ舊登記用紙ニ丁區事項欄ヲ追加シ之ニ關シテハ此規則ノ規定ヲ適用ス

前條ノ規定ハ前項ノ船舶ニ付キ此規則ニ依リテ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第五十二條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル登記アルトキハ此規則施行ノ後ト雖モ舊法ノ規定ニ依リテ其登記ノ變更又ハ抹消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ船舶ノ所有權カ移轉シタルトキハ其船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル質入又ハ書入ノ登記アル場合ニ限り此規則施行ノ後ト雖モ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得
前二項ニ定メタル申請アリタルトキハ登記官吏ハ舊法ノ規定ニ依リ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スコ

トヲ要ス

二七八

第五十三條 此規則ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附 則 (大正二年勅令第九三號)

本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年法律第十八號附則第二條乃至第八條ノ規定ハ本令ニ依ル登記ニ之ヲ準用ス但シ同法附則第五條中「乙區」トアルハ「丙區」ヲ謂フ

附 則 (大正三年勅令第二〇四號)

第一條 本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタル船舶ニ付其ノ改測ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ第十六條第一項第二號ノ事項ヲ除クノ外同條ニ掲ケタル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶原簿ノ抄本ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ變更後ノ事項ノ記載ハ第十六條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 前條ノ規定ニ依ル變更ノ登記ヲ受ケサル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示ハ本令ニ依ル表示ニ當然變更セラレタルモノト看做ス

附 則 (大正十一年十二月勅令第五二〇號)

本法ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和七年六月八日勅令第七十九號)

第一條 本令ハ昭和六年法律第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ニシテ昭和六年法律第六號ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタルモノニ付其ノ改測ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ第十六條第一項(第二號及第六號ヲ除ク)ニ掲ケル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル抄本ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ變更後ノ事項ノ記載ハ第十六條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ニシテ前條ノ規定ニ依ル變更ノ登記ヲ受ケサルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條 石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ニシテ昭和六年法律第六號ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケ登記スヘキモノト爲リタルモノニ付始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且第十四條及第十五條ニ規定スル書面ニ代ヘ船鑑札臺帳ノ謄本及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶件名書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ昭和六年法律

第六號施行ノ結果登記スヘキ船舶ト爲リタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第五條 従前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示欄ノ記載中「登簿噸數」又ハ「汽機ノ種類及ヒ數」トアルハ夫夫「純噸數」又ハ「機關ノ種類及ヒ數」ニ當然變更セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ變更スルヲ妨ケス

附 則 (昭和八年五月勅令第四百二十二號)

本令ハ昭和八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並んでいる。これはおそらく改訂や補正に関する詳細な規定や、あるいは印刷上の誤りによる重複文字列と推測される。）

○船舶登記取扱手續

明治三十二年六月十五日
司法省令第三十五號

改正 明治三十五年第一五號、三十六年第二六號、四十四年第二〇號、大正二年第一八號、同三年第九號、同五年第三八號、同一年第四七號、昭和二年第一號、同四年第一五號、同八年第三號

第一條 船舶登記簿ハ附録第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 船舶共同人名簿ハ附録第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 船舶特別登記簿ハ附録第一號雛形ニ準シ船舶特別共同人名簿ハ附録第二號雛形ニ準シ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 船舶登記見出帳ハ附録第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 船舶登記見出帳ニハイロハ順ニ依リ豫メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其ノ船名ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ船舶ノ名稱、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第六條 受付帳ハ附録第四號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第七條 登記證書ハ附録第五號雛形ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

第八條 船舶所有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町村長 市、區、町村長ナキ地方ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但不動産ノ登記ニ關シ其ノ登記所ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

船舶ヲ所有スル法人ノ代表者ハ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト船籍港ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第九條 印鑑ハ附録第六號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條 第八條ノ規定ハ官廳又ハ公署ニハ之ヲ適用セス

第十一條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及受付帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

- 一 印鑑簿
- 二 共同擔保目錄綴込帳
- 三 信託原簿綴込帳
- 四 申請書類綴込帳
- 五 決定原本綴込帳
- 六 抗告書類綴込帳
- 七 評價事件簿
- 八 評價書類綴込帳
- 九 印鑑證明書綴帳
- 十 登記證書交付帳
- 十一 本登記濟證交付帳

十二 船舶登記濟通知簿

十三 謄本抄本交付帳

十四 各種通知簿

十五 受領證原符元帳

十六 還納受領證綴込帳

第十一條ノ二 前條第二號乃至第十六號ノ帳簿ハ一箇年毎ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス

第十一條ノ三 評價事件簿ニ附第七號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十一條ノ四 共同擔保目錄ハ附録第八號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第十一條ノ五 申請人共同擔保目錄ノ表紙ニ船舶共同擔保目錄ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ

共同擔保目錄ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第十一條ノ六 信託原簿ハ附録第九號雛形ニ依リ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第十一條ノ七 第十一條ノ五ノ規定ハ信託原簿ニ之ヲ準用ス

第十二條 登記簿謄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ

記載シ又ハ其ノ事申テ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 船舶ノ種類及ヒ名稱

二 船籍港

三 手数料ノ金額

四 登記所ノ表示

五 年月日

第十三條 登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第十四條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ヲ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ何船籍港ノ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ半紙野紙ヲ用ユヘシ

第十四條ノ二 印鑑簿及ヒ信託原簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ

受付帳ハ十年間之ヲ保存スヘシ

決定原簿綴込帳、抗告書類綴込帳、評價事件簿、評價書類綴込帳及ヒ印鑑證明書類綴込帳ハ五年間之ヲ保存スヘシ

登記證書交付簿、本登記濟證交付帳、船舶登記濟通知簿、謄本抄本交付帳、各種通知簿、受領書原符元帳及ヒ還納受領證綴込帳ハ三年間之ヲ保存スヘシ

前三項ノ帳簿ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第十四條ノ三 共同擔保目錄ハ抵當權ノ抹消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ

第十五條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ登記ヲ申請スルニ必要ナル事項ノ外登録稅額ヲ記載スヘシ但登録稅法第三條第一項第一號乃至第十二號、第三條ノ二、第三條ノ三但書、第三條ノ

四及第十六條ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

登録稅法第十九條ノ八ノ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外差稅額ヲ記載スヘシ

第十六條 登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登録稅法第三條第一項第九號乃至第十二號ノ規定ニ依リ登録稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ船舶ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領書ヲ添附スヘシ

第十六條ノ二 數箇ノ船舶ニ關シ登録稅法第十六條ノ三ノ規定ニ依リ登録稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ登記官吏ハ後ニ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ課稅價格ヲ記載シタル登録稅ノ受領證

ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ
船舶及ヒ他ノ權利ニ關シ登録稅法施行規則第四條及ヒ第四條ノ二ノ規定ニ依リ登録稅ヲ徵收ス
ル場合亦前項ニ同シ前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十六條ノ三 商法第五百四十四條ノ二ノ規定ニ依ル船舶ノ委付ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨ
リ之ヲ申請スヘシ

特定ノ債權者ニ對シテ船舶ヲ委付スル場合ニ於テハ申請書ニ其債權者ヲ表示スヘシ

第十六條ノ四 前條ノ申請アリタルトキハ登記用紙中甲區事項欄ニ其登記ヲ爲スヘシ

第十七條 船舶登記規則第十條第一項ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ申請
書ニ裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ

第十八條 登記證書ヲ交付スルトキハ登記證書交付帳ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱並ニ船籍港、
交付ノ年月日及ヒ申請人ノ氏名ヲ記載シ登記證書ト契印スヘシ

第十九條 船舶登記規則第三條第一項ノ通知ニハ船舶ノ種類、名稱、積量、船籍港、申請書受附
ノ年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

第二十條 信託原簿用紙中ノ豫備欄カ記載スヘキ餘白ナキトキハ申請人ハ附錄第十號雛形ノ豫備
欄用紙ヲ編綴シ之ニ記載ヲ爲スヘシ

第二十一條 信託原簿ノ記載ヲ變更スヘキトキハ登記官吏ハ附錄第十一號雛形ノ變更欄用紙ヲ編

綴シテ契印ヲ爲シ之ニ記載ヲ爲スヘシ

第二十二條 登記番號ハ船舶登記規則施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第二十三條 船舶登記規則第五十一條第一項但書ノ規定ニ依リ舊登記簿用紙ニ丁區事項欄ヲ追加
スル場合ニ於テハ舊登記用紙中丙區ノ左側ニ附錄第一號雛形中丁區事項欄ノ部分ト同一ノ用紙
ヲ貼附シ登記官吏契印スヘシ

第二十四條 不動産登記法施行細則第二條第二項、第三項、第四條、第五條、第十條、第十二條、
第十三條、第十五條、第十六條ノ二乃至第十八條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第
二十九條、第三十二條ノ二、第三十三條、第三十四條、第三十五條ノ二乃至第三十七條、第三
十八條ノ二第三十九條、第四十條、第四十三條ノ四、第四十三條ノ七、第四十四條ノ五、第四
十四條ノ七乃至第四十四條ノ九、第四十五條、第四十六條、第四十六條ノ三乃至第四十七條、
第四十九條、第五十一條乃至第五十七條ノ九、第五十七條ノ十一、第五十八條乃至第六十一條、
第六十三條ノ二、第六十四條乃至第六十七條、第六十九條乃至第七十一條、第七十一條ノ四、
第七十二條乃至第七十六條及ヒ商業登記取扱手續第十三條、第四十六條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ
之ヲ準用ス

附 則 (大正二年司法省令第十八號)

第一條 本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶登記取扱手續

第二條 従前ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本ハ従前ノ規定ニ依ル謄本用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ
 第三條 本令施行前ニ調製シタル船舶登記見出帳ハ當分ノ内其儘之ヲ使用スルコトヲ得
 第四條 船舶異動通知書綴込帳ハ司法大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ廢毀スルコトヲ得

區裁判所出張所カ前項ノ許可ヲ請フトキハ管轄區裁判所ヲ經由スヘシ

附 則 (大正五年十二月司法省令第二十八號)

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ調製シタル帳簿及用紙ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スヘシ

見出帳ハ之ヲ改製スルマデハ仍ホ従前ノ雛形ニ依ルヘシ

附錄第一號

船舶登記簿

區裁判所

紙數表數ヲ除キ

枚

地方裁判所長

權有所) 區		甲		部		題		第	號	登記	
		番順位	事項欄							表	番號示
		番順位	事項欄							表	番號示
		番順位	事項欄							示	欄
		番順位	事項欄							表	示
		番順位	事項欄							表	示
		番順位	事項欄							表	示
		番順位	事項欄							表	示
		番順位	事項欄							表	示

(借入権抵 権貸及當)							
				丁			
丙		乙		(人管船)區			
順位	番號	事項欄	順位	番號	事項欄	順位	番號
事項欄	事項欄	事項欄	事項欄	事項欄	事項欄	事項欄	事項欄

附錄第二號以下省略

○船舶登記ノ謄本抄本請求手数料

明治三十一年六月 改正(大正二年五月省令第二六號
司法省令第三十七號 同 十年十月省令第二二號)

- 第一條 船舶登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付手数料金拾五錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノト雖仍ホ之ヲ一枚ニ計算ス
- 共同擔保目錄ヲ提出シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請求スル者ハ其提出シタル用紙一枚ニ付手数料金拾錢ヲ納ムヘシ豫備欄ニ登記シタル事項ヲ謄寫セサル用紙ニ付亦同シ
- 第二條 船舶登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ手数料金拾五錢ヲ納ムヘシ
- 第三條 船舶登記規則第十條第一項ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ請求スル者ハ手数料金一圓ヲ納ムヘシ
- 第四條 特別登記簿ニ船舶ニ關スル登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件手数料金拾五錢ヲ納ムヘシ
- 第五條 手数料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
- 第六條 第一條乃至第四條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其ノ職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス
- 第七條 本令ハ船舶登記規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶登記簿ノ謄本抄本請求手数料額

第一條 本令ハ船舶登記規則施行ノ日ヨリ之ニ依リテス

第二條 本令ニ依リテ登録シタル船舶ニ對シテハ其ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第三條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第四條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第六條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第七條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第八條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第九條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十一條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十二條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十三條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十四條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十五條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十六條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十七條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十八條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十條 船舶登記規則ニ依リテ登録シタル船舶ノ船主ハ其ノ船舶ノ所在ノ管轄地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

○船舶登記ノ附本等本館発刊

○船舶港力數箇登記所ノ管轄地ニ跨ル場合

登記取扱方

明治三十二年七月 司法省令第三十九號

船舶港力數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨ルトキハ其ノ船舶登記ノ事務ハ商業登記ニ付委任シタル登記所ニ於テ之ヲ取扱フ

船舶港力數箇登記所ノ管轄地ニ跨ル場合登記取扱方

○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正
○海陸軍大臣官制改正

○商法 (第五編中) 明治三十二年三月九日(明治三十二年四月勅令第一三三號) 法律第四十八號各大臣副署ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行

改正(明治四十四年五月) 法律第七十三號(明治四十四年八月勅令第二一九) 號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行

第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十一條 船舶所有權ノ移轉ハ其ノ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十二條 船長ハ左ニ掲クル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄
- 四 航海日誌

商法

- 五 旅客名簿
- 六 運送契約及積荷ニ關スル書類
- 七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限り命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

○商 船
（明治三十二年四月一日）
 （明治三十二年五月一日）
 （明治三十二年六月十六日）
 （明治三十二年七月一日）
 （明治三十二年八月一日）
 （明治三十二年九月一日）
 （明治三十二年十月一日）
 （明治三十二年十一月一日）
 （明治三十二年十二月一日）

○朝鮮船舶令

大正三年四月
 制令第七號

第一條 左ノ船舶ヲ以テ本令ニ依ル日本船舶トス

- 一 官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
- 二 朝鮮ニ住所ニ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
- 三 朝鮮ニ本店ヲ有スル商社會社ニシテ合名會社ニアリテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 四 朝鮮ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

第二條 前條ニ掲ケタル船舶ニ關シテハ本令ニ規定スモルノヲ除クノ外船舶法ニ依ル但シ同法中勅令トアルハ朝鮮總督府令、主務大臣トアルハ朝鮮總督、第四條第一項第十五條及第十七條中日本トアルハ朝鮮、外國トアルハ朝鮮外トス

朝鮮外ニ於テ取得シタル船舶ヲ朝鮮外各港ノ間ニ航行セシムル場合ニ於テ船舶所有者カ領事官又ハ内地、臺灣、樺太若ハ關東州ノ管海官廳ニ於テ船舶積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ朝鮮ノ管海官廳ニ於テ之ヲ受ケタルモノト看做ス

第三條 第一條ノ日本船舶ニ非サレハ不開港ニ寄港シ又ハ各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ

朝鮮船舶令

爲スコトヲ得ス但シ法令若ハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若ハ捕獲ヲ避ケムトスルトキ又ハ朝鮮總督ノ特許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

船舶法第一條ノ日本船舶ハ各港ノ間ニ於テ運送ナスコトヲ得

第四條 朝鮮總督ハ前條第二項ノ運送ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際舊令ニ依ル船舶國籍證書ヲ受有スル船舶所有者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ本令ニ依リ登録ノ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ因リ船舶國籍證書ノ交付ヲ受クル迄ハ舊令ニ依ル船舶國籍證書ハ之ヲ本令ノ船舶國籍證書ト見做ス

- 一 官廳又ハ公署ノ預金ニ屬スル者
- 二 陸軍ニ對シテハ日本國及シテ他國ニ屬スル者
- 三 陸軍ニ對シテハ日本國及シテ他國ニ屬スル者
- 四 官廳又ハ公署ノ預金ニ屬スル者

○附則

大正三年六月一日

○海事諸法臺灣施行令(抄録)

昭和六年十一月 改正(昭和九年二月) 勅令第二百七十三號

第一條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

船舶法

船舶安全法但シ同法第二條第一項第十一號ニ關スル規定及第二十七條ノ規定ヲ除ク

船員法

船員最低年齡法

船舶職員法

水先法但シ同法第二十條第二項ノ規定ヲ除ク

海員懲戒法但シ同法第八條第二項、第九條、第十一條、第十二條第二項、第十三條及第十四條ノ規定ヲ除ク

第二條 前條ノ法律中主務大臣又ハ遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

船舶法第三十四條第一項及海員懲戒法第四十九條中勅令トアルハ臺灣總督府令トス

○勅令施行期日ニ關スル件

昭和八年五月 府令第八十一號

昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令、昭和七年勅令第二十二號及昭和六年律令第二號ハ昭和八年五月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

海事諸法臺灣施行令

○船舶法施行ニ關スル件

(附則省略ス) 昭和八年一月 府令第十一號

改正 昭和八年十二月 同十二月六 府令第一四〇號 日ヨリ施行

第一條 船舶法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外明治三十二年遞信省令第二十四號 船舶法施行細則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

市	町	村	市街庄
町制	村制	街庄制	
遞信大臣		臺灣總督	
官報		臺灣總督府報	
稅務署		稅務官署	

何府縣何郡市何町村 何州廳何郡市何街庄區

第三條 本令ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ヲ返還スベキ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其ノ義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス 前項ノ罰則ハ船舶所有者法人ナルトキハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

○船舶法取扱手續ニ關スル件

(附則省略ス) 昭和八年三月 訓令第十號

第一條 船舶法ノ取扱手續ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外明治三十三年遞信省公達第三百六十三號船舶法取扱手續ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省公達中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

遞信省	臺灣總督府	交通部
遞信省管船局	臺灣總督府	交通局
府縣名	州廳名	
官報	臺灣總督府報	

○船舶法第二十一條ノ命令ニ關スル件

(附則省略ス) 昭和八年一月 府令第十二號

第一條 船舶法第二十一條ノ命令ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外明治四十年遞信省令第二十四號船鑑札規則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

道府縣名	州廳名
「府」又ハ「縣」	「州」又ハ「廳」
町村	街庄
何府何縣何郡何町村	何州廳何郡何街庄區

海事諸法臺灣施行令

第三條 船鑑札規則第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
前項ノ罰則ハ船舶所有者法人ナルトキハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

○船舶積量測度法第二十一條ノ命令ニ關スル

施行手續ノ件

(附則省略ス) 昭和八年三月 訓令第十一號

第一條 船舶法第二十一條ノ命令ニ關スル件ノ施行手續ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外明治四十年遞信省訓令第一號船鑑札規則施行手續ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省訓令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

遞信省	臺灣總督府交通局
遞信大臣	臺灣總督
何府縣	何州廳
他府縣	他州廳

○船舶積量測度法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

大正十一年十二月 勅令第五百二十一號

第一條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

船舶積量測度法

第二條 前條ノ法律中勅令トアルハ臺灣總督府令、國稅徵收法トアルハ臺灣國稅徵收規則トス

第三條 大正十一年勅令第四百七號第二條乃至第四條ノ規定ハ第一條ノ法律ノ施行ニ付之ヲ準用ス

○船舶積量測度ニ關スル件

(附則省略ス) 大正十二年一月 府令第五號

改正 (昭和七年十二月 府令第七四號)

第一條 船舶ノ積量測度方法ハ本令ニ規定スルモノノ外大正三年遞信省令第十六號船舶積量測度規定ニ依ル

第二條 削除

第三條 削除

○大正十二年訓令第二號船舶積量測度心得ニ

關スル件中改正ノ件

昭和八年三月 訓令第十二號

昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

海事諸法臺灣施行令

第一條但書中「臺灣總督府」ヲ「臺灣總督府交通局」ニ改メ、「管海官廳トアルハ地方官廳」ヲ削ル

○簡易船舶積量測度ニ關スル件 (附則省略)

昭和七年十二月
府令第七十五號

第一條 長二十メートル未滿ノ船舶ノ積量測度ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外昭和七年
遞信省令第十二號簡易船舶積量測度規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス
第二條 上甲板下又ハ舷端以下ノ積量ハ船ノ長、幅及深ノ相乘積ニ船質ニ應シ左ノ係數ヲ乘シタ
ルモノトス

鋼 船

○・六二

木 船 支那形船

○・六一

其ノ他ノモノ

○・五五

○關東州船籍令

明治四十四年十二月
關東都督府令第三十五

改正 大正三年十月
府令第二三號

改正 昭和九年九月
廳令第四〇號

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二 關東州ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 關東州ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合
資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナル
モノノ所有ニ屬スル船舶

四 關東州ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ
屬スル船舶

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 船舶法第一條ニヨリ日本船舶タルモノ及本令ニ依リ日本船舶タルモノニ非サレハ關東州
不開港場ニ寄港シ又ハ關東州各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ條約若
ハ法令ニ別段ノ定アルトキ海難若ハ捕獲ヲ避ケムトスルトキ又ハ滿洲國駐劄特命全權大使ノ特
許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ大連市、旅順市又ハ普蘭店ニ船籍港ヲ定メ關東海務局 以下海務ニ船
船ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後海務局ニ船舶ノ登録ヲ申請スルコトヲ要ス
海務局カ其ノ登録ヲ爲シタルトキハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 船舶港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ其ノ船舶港ニ到著スル迄州内ニ在リテハ海務局ニ内地、樺太、臺灣、朝鮮ニ在リテハ該船舶所在地ノ地方官廳ニ外國ニ在リテハ該船舶所在地若ハ其ノ近傍駐在帝國領事館ニ假船舶國籍證書ノ交付ヲ申請シ船舶國籍證書ニ代用スルコトヲ得假船舶國籍證書ノ效力ハ海務局ヨリ交付シタルトキハ三箇月地方官廳ヨリ交付シタルトキハ六箇月領事官ヨリ交付シタルトキハ一箇年ヲ以テ限トス但シ引續キ二度以上假船舶國籍證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニハ初度ノ假船舶國籍證書ニ記載シタル日附ヨリ起算シ本文ノ期限ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ船舶カ船舶港ニ到著シタルトキハ假船舶國籍證書ノ有効期間滿了前ト雖其ノ效力ヲ失フ

第七條 日本船舶ハ日本ノ國旗ヲ掲ケ其ノ名稱、船舶港、番號、積量、喫水ノ尺度其ノ他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第九條 日本船舶ノ名稱ハ海務局ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 船舶所有者カ其ノ船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其ノ積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク海務局ニ其ノ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク其ノ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十三條 船舶國籍證書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ再交付若ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四條 船舶港外ニ於テ前二項ノ事實ヲ生シタルトキハ第六條ニ依リ假船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 第三條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第十六條 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキハ解撤セラレタルトキ又ハ船舶ヲ喪失シ若ハ第十七條ニ掲クル船舶トナリタルトキハ遲滞ナク抹消ヲ請ヒ且船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六箇月分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者抹消手續ヲ爲ササルトキハ海務局ハ二箇月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ尙其ノ手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條 前第十三條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶及端舟其ノ他權權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ權權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

前項ニ掲クル船舶ノ船籍及其ノ積量ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本令ノ施行ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外遞信省令船舶法施行細則ニ依ル但シ同細則中官報トアルハ關東局報、船舶法第四條、第五條第一項、第九條、第十三條、第十四條第一項、第十四條第二項、第十六條、第十七條トアルハ各關東州船籍令第四條、第五條第一項、第十條、第十四條、第十六條第一項、第十六條第二項、第六條第一項、第六條第二項トス

第十九條 船舶積量ノ測度ニ關シテハ船舶積量測度法、遞信省令船舶積量測度規程及遞信省令簡易船舶積量測度規程ニ依ル但シ主務大臣ノ職務ハ關東長官之ヲ行フ

- 第二十條 船舶ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ
 - 一 新規登録 每十噸 五十錢
 - 二 轉籍 每十噸 二十錢
 - 三 登録ノ抹消 每十噸 二十錢
 - 四 登録ノ變更 船舶每一箇 三十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數八十噸トシテ計算ス

第二十一條 日本國旗ヲ掲クルコトヲ得サル船舶ニシテ之ヲ掲ケタルトキハ第八條ノ場合ヲ除クノ外船長ヲ五十圓以上二百圓以下ノ罰金又ハ一箇年以下ノ懲役ニ處ス第三條ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ日本船舶ニシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦同シ

第二十二條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキ又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルト

キハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第九條乃至第十三條第十五條若ハ第十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 本令ノ規定ニ依リ船長國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其ノ義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ科料ニ處ス

第二十五條 本令ノ罰則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用シ船舶所有者ニ適用スヘキモノハ船舶管理人ニモ之ヲ適用ス

第二十六條 本令ノ罰則ハ船舶所有者カ未成年者若ハ禁治產者ナルトキハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用シ會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

但船舶管理ニ關シ未成年者ガ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

第二十七條 本令ハ關東州水產組合ノ所有ニ關スル船舶ニ之ヲ適用ス

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

從來ノ船舶ニシテ本令ノ適用ヲ受クヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月内ニ本令ニ依リ其ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ要ス

